

コマツ 2015年度 決算説明会

2016年4月27日(水)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO	大橋 徹二
代表取締役副社長(兼)CFO	藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長	稲垣 泰弘

I. 2015年度 決算の概要 <P3-P14>

- P4-6 : 2015年度の概況・セグメント売上高と利益
- P7-8 : <建設機械・車両> 2015年度の状況
- P9 : リテールファイナンスの状況
- P10 : <産機事業他> 2015年度の状況
- P11 : 連結貸借対照表
- P12-14 : 前中期経営計画の振り返り

II. 2016年度の業績見通し <P15-P31>

- P16-17 : 2016年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)
- P18-19 : <建設機械・車両> 2016年度の見通し
- P20 : <リテールファイナンス> 2016年度の見通し
- P21 : <産機事業他> 2016年度の見通し
- P22-27 : <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
- P28-29 : <建設・鉱山機械> 鉱山機械の状況の見通し
- P30 : <建設・鉱山機械> 部品の売上高の見通し
- P31 : 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

III. 中期経営計画(2016-18年度) <P32-P40>**参考資料 <P42-P50>**

- P43-45 : 四半期毎の状況
- P46-47 : BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕
- P48-50 : 2015年度第4四半期(1月-3月)の状況

I . 2015年度の決算概要

- ・ 連結売上高は前年比▲6.3%減収の18,549億円。
- ・ 営業利益は前年比▲13.8%減益の2,085億円。売上高営業利益率は同▲1.0ポイント減の11.2%。
- ・ 純利益は前年比▲10.8%減益の1,374億円。

金額単位：億円	2014年度 ¥109.7/USD ¥139.6/EUR ¥17.7/RMB	2015年度見通し (期初公表値) ¥115/USD ¥127/EUR ¥18.3/RMB	2015年度 ¥120.8/USD ¥132.4/EUR ¥19.0/RMB	前年比	
				増減	増減率
連結売上高	19,786	18,800	18,549	▲1,237	▲6.3%
セグメント利益	2,409	2,250	2,020	▲389	▲16.2%
その他の営業収益(▲費用)	10	▲40	65	+54	-
営業利益	2,420	2,210	2,085	▲334	▲13.8%
売上高営業利益率	12.2%	11.8%	11.2%	▲1.0ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲59	▲70	▲36	+22	-
税引前純利益	2,360	2,140	2,048	▲311	▲13.2%
純利益*	1,540	1,380	1,374	▲165	▲10.8%
ROE	10.6%	9.0%	9.0%	▲1.6ポイント	-
ネットD/Eレシオ	0.32	0.27	0.23	▲0.09ポイント	-
除く：リテールファイナンス	▲0.00	▲0.03	▲0.09	▲0.09ポイント	-
リテールファイナンス	3.20	2.88	3.40	+0.20ポイント	-
1株当たり配当金(円)	58円	58円	58円	±0円	
連結配当性向	35.8%	39.6%	39.8%		

* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

- 為替レートは、1ドル:120.8円、1ユーロ:132.4円、1元:19.0円です。前年比で、円はドルと元に対して円安、ユーロに対して円高となりました。また、豪ドル・ランド・ルーブルに対しても円高となりました。
- 2015年度の連結売上高は、前年比▲6.3%減収の1兆8,549億円、営業利益は▲13.8%減益の2,085億円となりました。営業利益率は▲1.0ポイント減の11.2%です。
- 純利益は▲10.8%減益の1,374億円です。
- 昨年4月に公表した予想値との比較としては、需要が想定以上に減ったマイナス影響を、為替の円安効果と旧川越工場の売却益でカバーし、売上高と営業利益は若干のマイナスとなりましたが、純利益はほぼ達成することができました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲6.9%減収の1兆6,410億円。セグメント利益は▲19.0%減益の1,841億円。セグメント利益率も▲1.7ポイント悪化し、11.2%。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲0.6%減収の2,201億円。セグメント利益は+19.2%増益の193億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2014年度	2015年度見通し (期初公表値)	2015年度	前年比	
				増減	増減率
売上高	19,786	18,800	18,549	▲1,237	▲6.3%
建設機械・車両	(17,613) 17,634	(16,680) 16,700	(16,384) 16,410	(▲1,229) ▲1,223	(▲7.0%) ▲6.9%
産業機械他	(2,172) 2,215	(2,120) 2,150	(2,165) 2,201	(▲7) ▲13	(▲0.3%) ▲0.6%
消去	▲62	▲50	▲62	+0	-
セグメント利益	□12.2% 2,409	□12.0% 2,250	□10.9% 2,020	▲389	▲16.2%
建設機械・車両	□12.9% 2,272	□12.6% 2,100	□11.2% 1,841	▲431	▲19.0%
産業機械他	□7.3% 162	□8.4% 180	□8.8% 193	+31	+19.2%
消去または全社	▲25	▲30	▲14	+10	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

北米において一般建設機械の需要を着実に取り込んだものの、鉱山機械の需要低迷に伴う販売減少や中国をはじめとする新興国における需要が大幅に減少し、減収・減益となりました。

■ 産業機械他

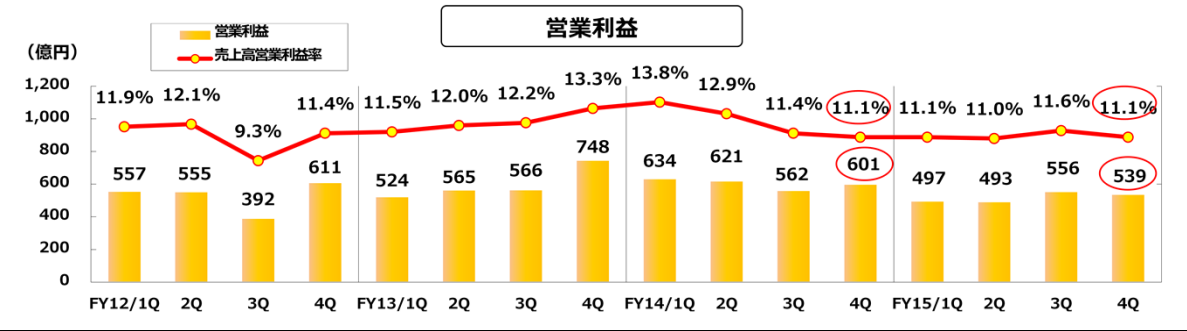
半導体業界の安定的な設備稼働に支えられギガフォンの売上げが伸長したものの、鍛圧機械等の販売が減少したことから全体としては減収、利益は増加しました。

□建設機械・車両の売上高は、前年比▲6.9%減収の1兆6,410億円となりました。主に北米において一般建機の需要を着実に取り込みましたが、鉱山機械の需要低迷に伴う販売減少や中国をはじめとする新興国における需要・販売の減少が影響しました。

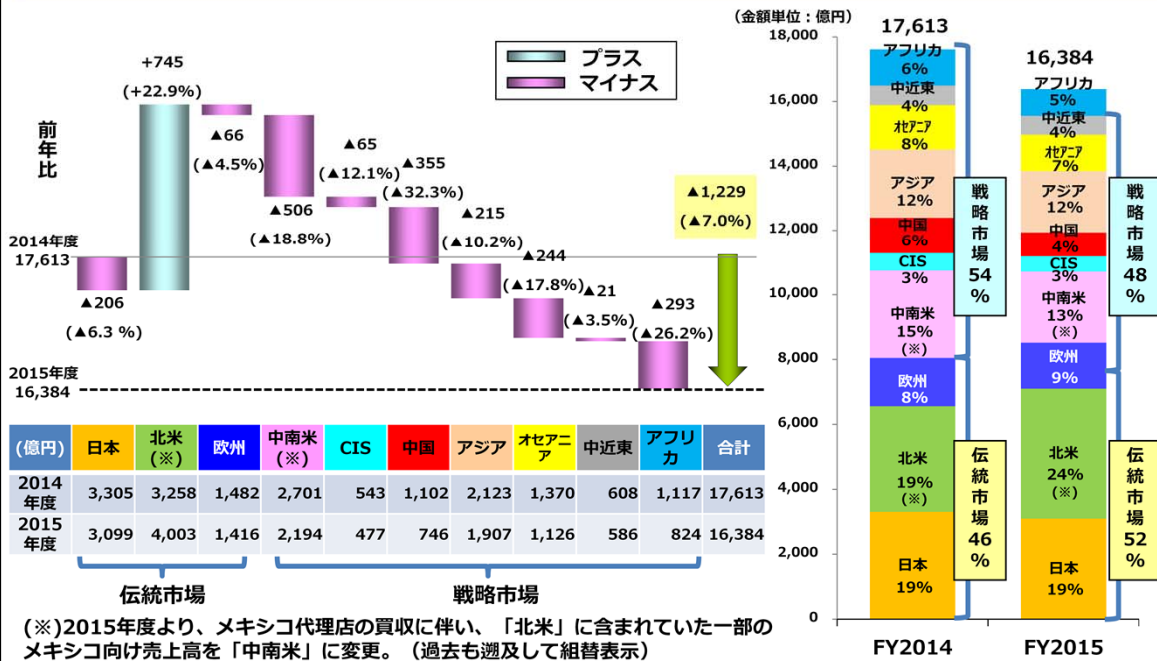
□建設機械・車両のセグメント利益は▲19.0%減益の1,841億円です。

□産業機械他は、売上高は、前年比▲0.6%減収の2,201億円、セグメント利益は、+19.2%増益の193億円となりました。

四半期毎の売上高と営業利益の推移



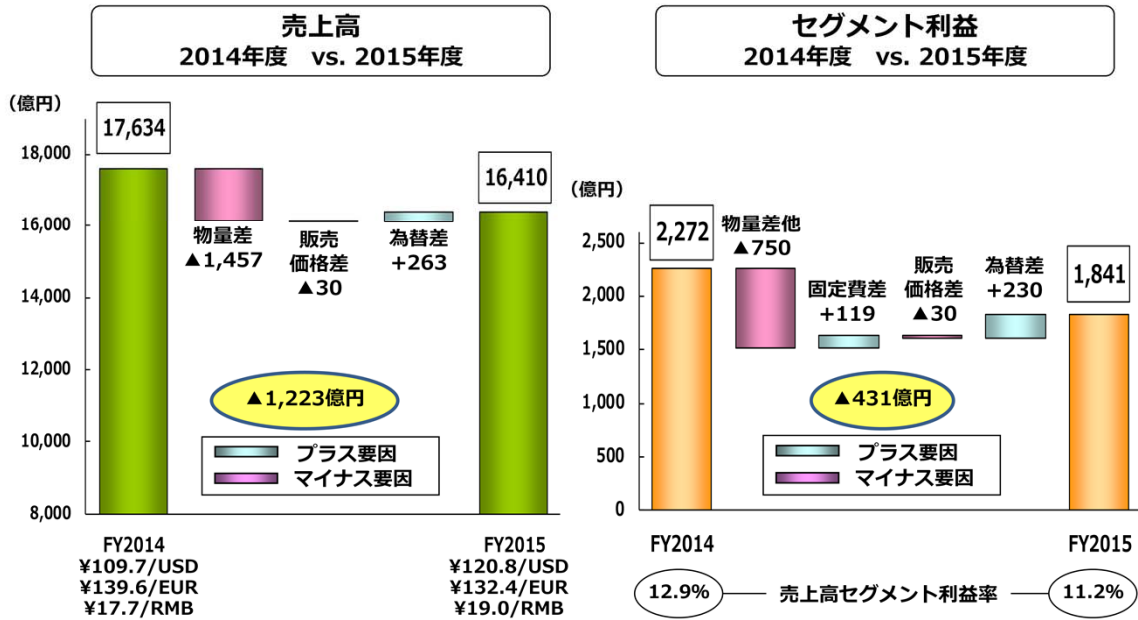
- ・外部顧客向け売上高は前年比▲7.0%減収の1兆6,384億円。
- ・北米で伸長したものの、中南米・中国・アフリカ等戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が52%に増加。



□建設機械・車両の売上高は、前年比▲7.0%減収の1兆6,384億円となりました。

□北米で伸長したものの、中南米・中国・アフリカ等戦略市場での売上減少が響き、前年比で減収となりました。その結果、構成比では、伝統市場の比率が増加し、52%となりました。

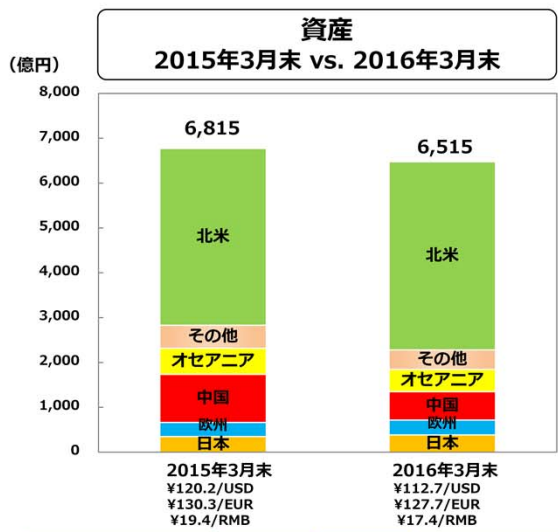
- ・中南米・中国・アフリカ等戦略市場での需要減少による物量減が大きく、円安の効果があったが、売上高は前年比▲1,223億円の減収。セグメント利益も、円安の効果に加え固定費削減を行ったが、同▲431億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲1.7ポイント悪化し11.2%。



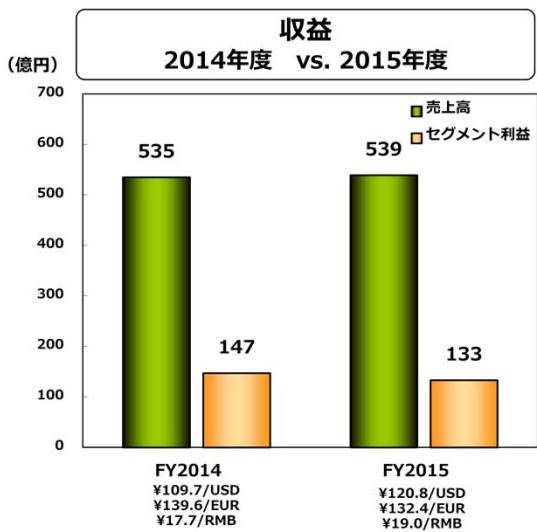
□売上高は▲1,223億円の減収です。為替の円安効果+263億円のプラス要因はあったものの、中南米・中国・アフリカ等の戦略市場での需要減少による物量減が影響しました。

□セグメント利益についても、円安の効果に加えて固定費の削減を行いました。前年比▲431億円の減益となりました。

・資産は販売好調の北米で積み増したが、為替の影響及び中国・チリの新規取組の低下により、前年度末比で減少。
 ・利益は主に中国の資産減少に伴い、前年比で減少。



	2015/3E	2016/3E	前年比
借入金	4,988	4,835	▲153
ネットベースの借入金	4,877	4,766	▲111
ネットD/Eレシオ	3.20	3.40	+0.20ポイント

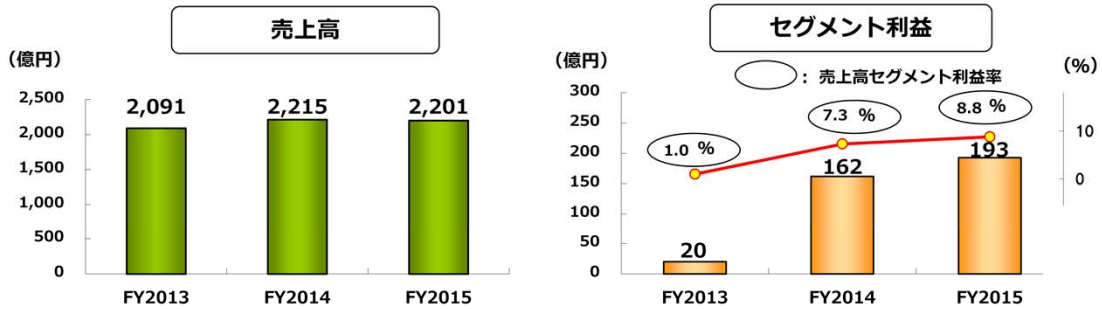


	FY2014	FY2015	前年比
ROA	2.4%	2.0%	▲0.4%

□リテールファイナンスの総資産は、前年度末に比べ▲299億円減少し、6,515億円となりましたが、為替のマイナス影響が▲431億円含まれており、実質は+132億円の増加です。

□売上高は増収、利益は主に中国の資産減に伴い減益となりました。

・半導体業界の安定的な設備稼働に支えられギガフォンの売上げが伸長したものの、鍛圧機械等の販売が減少したことから、売上高は前年比▲0.6%減収の2,201億円、セグメント利益率は8.8%。



金額単位：億円	2013年度	2014年度	2015年度	前年比	
				増減	増減率
コマツ産機等 (プレス事業合計)	545	640	580	▲59	▲9.2%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	735 [58]	736 [78]	710 [69]	▲26 [▲8]	▲3.6% [▲11.3%]
その他 [うち、ギガフォン] [うち、コマツハウス]	811 [240] [164]	838 [292] [163]	910 [340] [161]	+71 [+48] [▲2]	+8.6% [+16.7%] [▲1.5%]
合計	2,091	2,215	2,201	▲13	▲0.6%

□産業機械他部門では、半導体業界の安定的な設備稼働に支えられてギガフォンの売上げが伸長したものの、鍛圧機械等の販売が減少したことから、売上高は前年比▲0.6%減収の2,201億円となりました。

□セグメント利益はギガフォンが貢献し、193億円、セグメント利益率は前年比で1.5ポイント増の8.8%となりました。

- ・ 総資産は、為替の影響及び棚卸資産等の減少により、前年度末比で▲1,837億円の減少。
- ・ 株主資本比率は同+3.4ポイント増の58.0%。ネットD/Eレシオは0.23。

(金額単位：億円)	2015年3月末 ¥120.2/USD ¥130.3/EUR ¥19.4/RMB	2016年3月末 ¥112.7/USD ¥127.7/EUR ¥17.4/RMB	増 減
現金・預金（含む定期預金）[a]	1,073	1,084	+11
受取手形・売掛金（含む長期売上債権） ＜除くリテールファイナンス会社＞	9,002 <3,981>	8,753 <3,661>	▲249 <▲320>
棚卸資産	6,228	5,396	▲832
有形固定資産	7,439	6,977	▲461
その他資産	4,240	3,935	▲305
資産合計	27,984	26,146	▲1,837
支払手形・買掛金	2,250	2,054	▲196
借入金・社債 [b] ＜除くリテールファイナンス会社＞	5,891 <902>	4,575 <▲259>	▲1,315 <▲1,162>
その他負債	3,856	3,639	▲217
負債合計	11,999	10,268	▲1,730
(株主資本比率)	(54.6%)	(58.0%)	(+3.4*ポイント)
株主資本	15,289	15,174	▲115
非支配持分	695	703	+8
負債及び純資産合計	27,984	26,146	▲1,837
ネットD/Eレシオ	0.32	0.23	
ネットD/Eレシオ 除く：リテールファイナンス	▲0.00	▲0.09	
リテールファイナンス	3.20	3.40	

□ 総資産は前年度末比で、▲1,837億円減少しました。為替の影響が▲1,371億円あり、これを除けば、実質は▲466億円の減少です。

□ 棚卸資産は、前年度末比で▲832億円削減し、そのうちの約半分が為替の影響によります。

□ 借入金・社債は▲1,315億円減少しましたが、為替の影響が▲254億円含まれています。現金・預金とネットしたベースでは▲1,327億円の減少です。

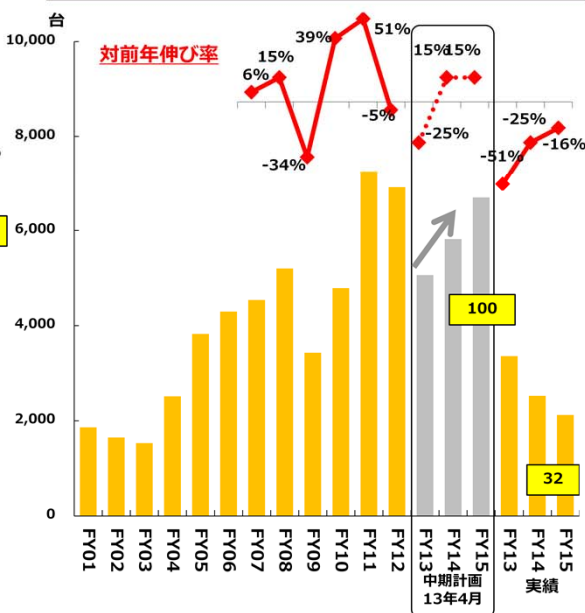
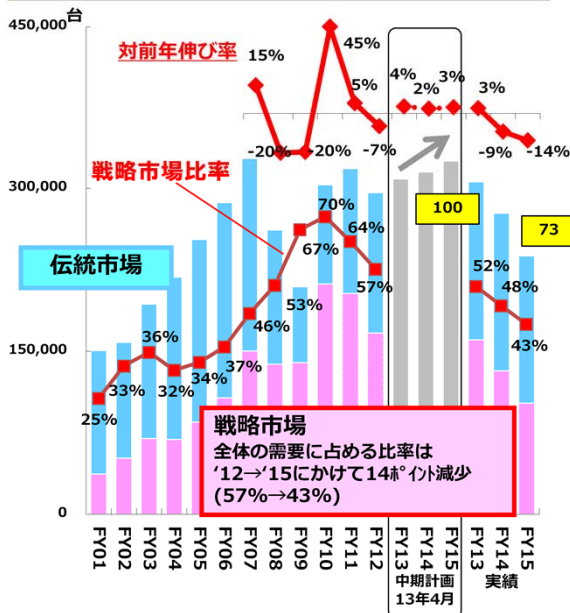
□ 株主資本比率は同+3.4ポイント増の58.0%となりました。

□ ネット・デット・エクイティ・レシオは0.23、リテールファイナンス会社を除くと▲0.09です。

- ・世界需要は新興国を中心に調整期入りし、緩やかな回復とした中期経営計画の前提と大きく乖離。
- ・長期的には成長が見込めるという前提に変更なし。

＜主要7建機の中期計画策定時の前提＞
北米が伸び、中国は12年度が底。中南米・CISは安定成長し、15年度以降戦略市場の成長が加速。

＜鉱山機械需要の中期計画策定時の前提＞
13年度は前年比25%減。その後徐々に回復し15年度には12年度と同レベル。以降も安定的に成長の見通し。



□2015年度実績と、中期経営計画目標との比較についてご説明致します。

□始めに、建設・鉱山機械の需要についてですが、左側グラフの通り、前中計作成時点では2013年以降緩やかな回復という前提を置きましたが、残念ながら実績は大きく落ち込み、2015年需要は想定73%レベルまで下がりました。

□また、その構成においても、戦略市場の占める比率が2012年の57%から2015年の43%まで大きく下降し、コマツの収益性にもマイナスの影響となりました。

□右側が鉱山機械の需要ですが、こちらの落ち込みは更に大きく、2015年需要は想定32%レベルまで下がりました。

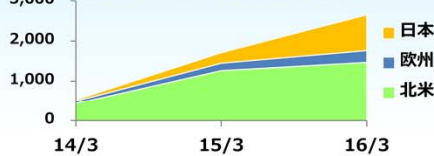
□建設・鉱山機械市場は、中長期的には大きく成長する市場という見方に変更はありませんが、調整期間が長引いている状況です。

- ・需要が低迷している中でも、基本戦略と取り組むべき重点活動項目は変わらず、着実に実行した。
- ・継続テーマと新たな活動を、次期中計において進化・加速させて、成長に向けて実行する。

1) イノベーションによる成長戦略

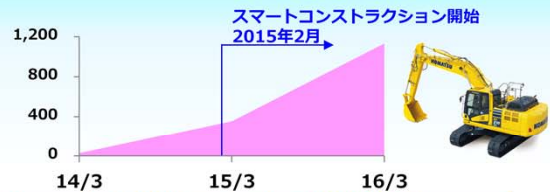
- ・ ICT建機の開発・導入。

＜ICT累計建機累計出荷台数＞
2,600台超（2016年3月末）



- ・ スマートコンストラクションの推進。

＜日本でのICT建機導入現場数＞
1,100現場超（2016年3月末）



2) 既存事業の成長戦略

- ・ 部品売上の拡大

- ・ 代理店網の強化
 - ・ サウジアラビア
 - ・ アメリカ
 - ・ メキシコ他
- ・ 最新の排出ガス規制に対応した商品の開発・導入

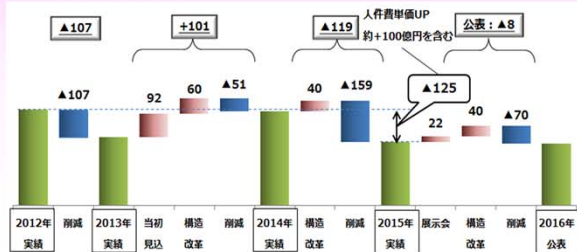
＜部品売上高＞



3) 土台強化のための構造改革

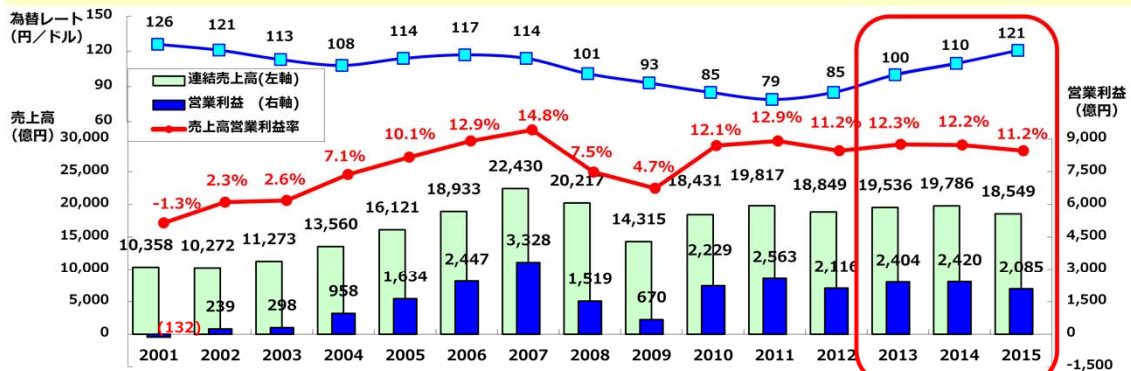
- ・ 構造改革、継続的コスト改善活動

＜固定費の推移＞



- 次に、中期経営計画で定めた基本戦略と重点活動項目の振り返りです。
- この3年間、経営の基本戦略と取り組むべき重点活動項目は変えておりませんが、環境が変化する中、構造改革を加速する等の対応をした結果、一定の成果を出せたと考えます。
- イノベーションによる成長戦略では、ICT建機の開発・導入と、スマートコンストラクションの推進が大きな成果であると考えます。
- 既存事業の成長戦略では、代理店網の強化、最新の排ガス規制に対応した商品の開発・導入を進め、部品売上高は着実に伸ばすことができました。
- 土台強化のための構造改革では、需要減少のなかで必要な構造改革を実施するとともに、継続的なコスト改善活動を行いました。
- 右下のグラフに示しておりますが、固定費は2013年からの3年間で、人件費の単価アップ影響約100億円を吸収した上で、構造改革の効果も含めて▲125億円を削減を行いました。2015年度単年度としては、当初▲76億円の削減予定でしたが、厳しい状況下、▲43億円の追加削減を行い、合計では対前年で▲119億円の削減を行いました。

- ・前提とした建機需要が大幅に想定を下回り、営業利益率・ROEについては目標未達となった。
- ・ネット・デット・エクイティ・レシオは達成。株主還元では自社株買いを実施。



<中期経営計画の経営目標>

- ① 業界トップレベルの収益性・財務体質を目指す。
- ② 株主の皆様への利益還元水準を向上させる。
- ③ 成長への投資を行いつつ、ネット・デット・エクイティ・レシオ、ROEを改善する。

目標値	年度	FY2012 実績	FY2013 実績	FY2014 実績	FY2015 実績	FY2015 目標
売上高営業利益率		11.2%	12.3%	12.2%	11.2%	18~20%
ROE		11.5%	12.4%	10.6%	9.0%	18~20%
ネットD/Eレシオ		0.49	0.37	0.32	0.23	0.3以下
連結配当性向 (自社株買い含む総還元性向)		36.2%	34.7%	35.8% (55.2%)	39.8%	30~50% (-)
前提条件	売上高(億円)	18,849	19,536	19,786	18,549	23,000±2000
	米ドル(円)	82.5	99.6	109.7	120.8	90~95
	ユーロ(円)	106.6	132.8	139.6	132.4	120~125
	元(円)	13.2	16.3	17.7	19.0	15.0~15.3

□ 業績推移と経営目標値についてご説明致します。

□ 実際の需要が中期経営計画の想定を大きく下回ったことにより、為替が想定よりも円安に振れているプラス影響を含めても、売上高は1兆8,549億円にとどまりました。物量差による大きなマイナスに加え、新興国売上あるいは鉱山機械事業売上の比率が低下したこと等による構成差のマイナスも大きく、2015年度の営業利益率実績は11.2%、ROEも9.0%と、残念ながら中期経営計画の目標には届きませんでした。

□ 一方、フリー・キャッシュ・フローはプラスを継続しており、ネット・デット・エクイティ・レシオについては2015年度で0.23となり、目標の0.3以下を達成致しました。

□ 配当については、配当性向の基準の30%~50%の間での配当を安定的に行うとともに、2014年度、11月~1月にかけて、300億円の自社株買いを行うことで、株主への利益還元を向上させました。

Ⅱ. 2016年度の業績見通し

- ・ 連結売上高は前年比▲9.2%減収の16,850億円の見通し。
- ・ 営業利益は前年比▲28.1%減益の1,500億円、売上高営業利益率は同▲2.3ポイント減の8.9%の見通し。
- ・ 純利益は前年比▲33.1%減益の920億円の見通し。

金額単位：億円	2015年度 ¥120.8/USD ¥132.4/EUR ¥19.0/RMB	2016年度 (見通し) ¥105/USD ¥119/EUR ¥16.2/RMB	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	18,549	16,850	▲1,699	▲9.2%
セグメント利益	2,020	1,550	▲470	▲23.3%
その他の営業収益(▲費用)	65	▲50	▲115	-
営業利益	2,085	1,500	▲585	▲28.1%
売上高営業利益率	11.2%	8.9%	▲2.3ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲36	▲50	▲13	-
税引前純利益	2,048	1,450	▲598	▲29.2%
純利益*	1,374	920	▲454	▲33.1%
ROE	9.0%	6.2%	▲2.8ポイント	
1株当たり配当金(円)	58円	58円	±0円	
連結配当性向	39.8%	59.4%		

* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

□為替レート的前提は、1ドル:105円、1ユーロ:119円、1元:16.2円と致します。

□2016年度の業績見通しは、連結売上高が前年比▲9.2%減収の1兆6,850億円、営業利益が▲28.1%減益の1,500億円、売上高営業利益率は▲2.3ポイント減の8.9%、純利益は920億円の見通しです。

□ ROEは前年比▲2.8ポイント低下の6.2%になる見通しです。

- ・2016年度からリテールファイナンスを事業セグメントとして独立。
- ・建設機械・車両部門、リテールファイナンス部門、産業機械他部門ともに、減収減益の見通し。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

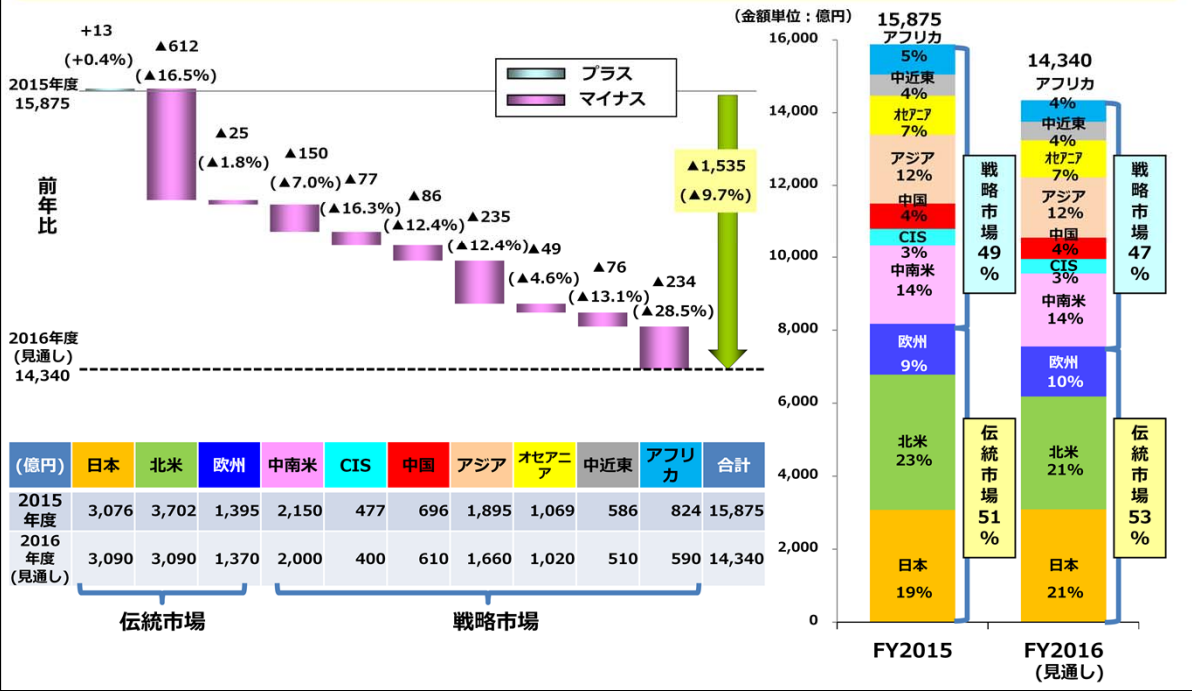
金額単位：億円	2015年度	2016年度 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
売上高	18,549	16,850	▲1,699	▲9.2%
建設機械・車両	(15,875) 16,020	(14,340) 14,450	(▲1,535) ▲1,570	(▲9.7%) ▲9.8%
リテールファイナンス	(508) 539	(400) 430	(▲108) ▲109	(▲21.3%) ▲20.3%
産業機械他	(2,165) 2,201	(2,110) 2,120	(▲55) ▲81	(▲2.6%) ▲3.7%
消去	▲211	▲150	+61	-
セグメント利益	□10.9% 2,020	□9.2% 1,550	▲470	▲23.3%
建設機械・車両	□10.5% 1,690	□8.9% 1,290	▲400	▲23.7%
リテールファイナンス	□24.7% 133	□25.6% 110	▲23	▲17.4%
産業機械他	□8.8% 193	□8.5% 180	▲13	▲7.1%
消去または全社	3	▲30	▲33	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
需要が引き続き低下する中で収益の拡大を計るが、円高の影響が大きく、前年比減収減益の見通し。
- リテールファイナンス
・2016年度からリテールファイナンスを事業セグメントとして独立。
・資産減少及び為替の影響により、前年比減収減益の見通し。
- 産業機械他
コマツハウスの株式譲渡(※)の影響を除くと増収の見通し。
(※)2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業に譲渡予定(2016年03月22日ニュースリリース)

- 2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれておりましたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致します。それに伴い、2015年度実績も組替表示しております。
- 2016年度の建設機械・車両は、需要が低迷する中で収益の拡大を計りますが、円高の影響が大きく、前年比で減収減益となる見通しです。
- リテールファイナンスは、資産減少及び為替の影響により、前年比減収減益の見通しです。
- 産業機械他は、コマツハウスの株式譲渡の影響を除くと、前年比増収の見通しです。

・ 2016年度の外部顧客向け売上高は、円高の影響が大きく、日本を除く全ての地域でマイナスとなり、前年比▲9.7%減収の1兆4,340億円の見通し。
 ・ 伝統市場比率は53%に増加の見通し。

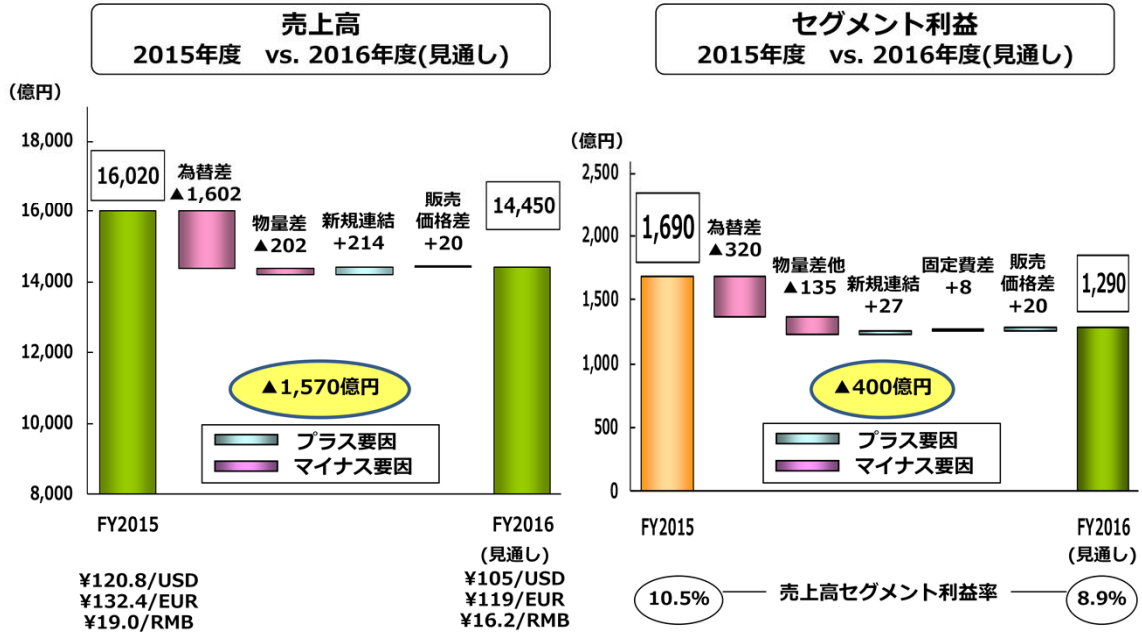


□2016年度は、円高の影響が大きく、日本を除く全ての地域でマイナスとなり、前年比▲9.7%減収の1兆4,340億円の見通しです。

□但し、為替影響を除いて物量ベースでマイナスとなるのは、北米・中近東・アフリカです。

□伝統市場の比率は、前年度の51%から53%に増加する見通しです。

- ・売上高、利益ともに為替による影響が大きく、売上高は前年比▲1,570億円の減収、セグメント利益も▲400億円減益の見通し。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲1.6ポイントの8.9%の見通し。

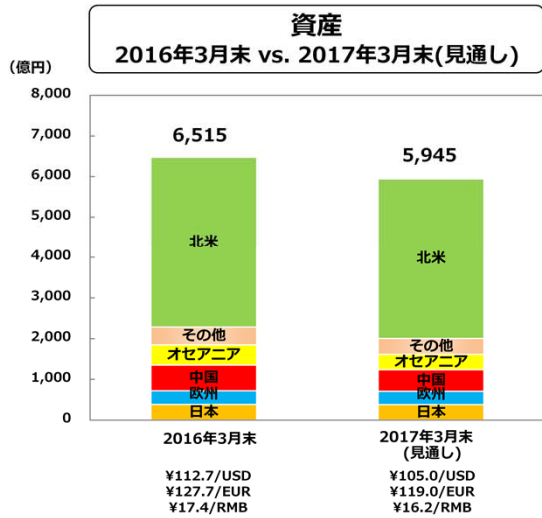


□売上高、利益ともに為替による影響が大きく、減収減益の見通しです。

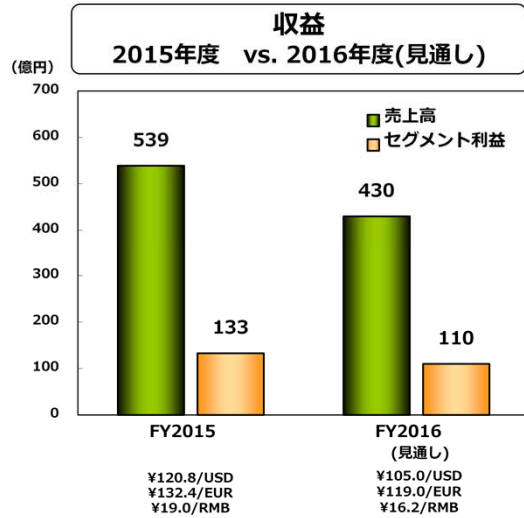
□売上高は、新規連結による影響が+214億円ありますが、円高による影響が▲1,602億円あり▲1,570億円の減収の見通しです。

□セグメント利益については、新規連結の影響の他、販売価格の改善、固定費の削減等を見込んでおりますが、円高の影響が大きく、前年比▲400億円の減益の見通しです。

- ・資産は為替の影響及び中国、オセアニアでの取組減により前年度末比で減少。
- ・資産減少及び為替の影響により減収減益。



金額単位: 億円	2016/3E	2017/3E	前年比
借入金	4,835	4,416	▲418
ネットベースの借入金	4,766	4,347	▲419
ネットD/Eレシオ	3.40	3.42	+0.02ポイント

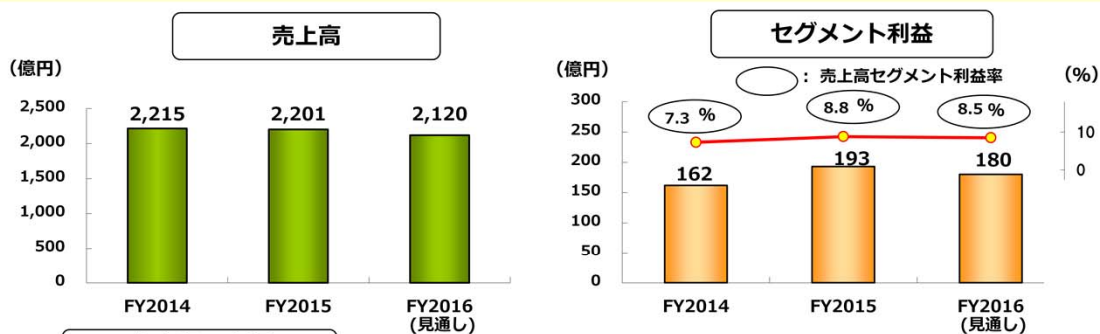


	FY2015	FY2016(見通し)	前年比
ROA	2.0%	1.7%	▲0.3%

□リテールファイナンスの総資産は、為替の影響及び中国・オセアニアでの取組み減により、前年度末比で減少する見通しです。

□収益については、資産減少及び為替の影響により減収減益の見通しです。

- ・売上高は前年比▲3.7%減収の2,120億円、セグメント利益は前年比▲13億円減益の180億円の見通し。
- ・コマツハウス売却の影響を除くと、増収の見通し。

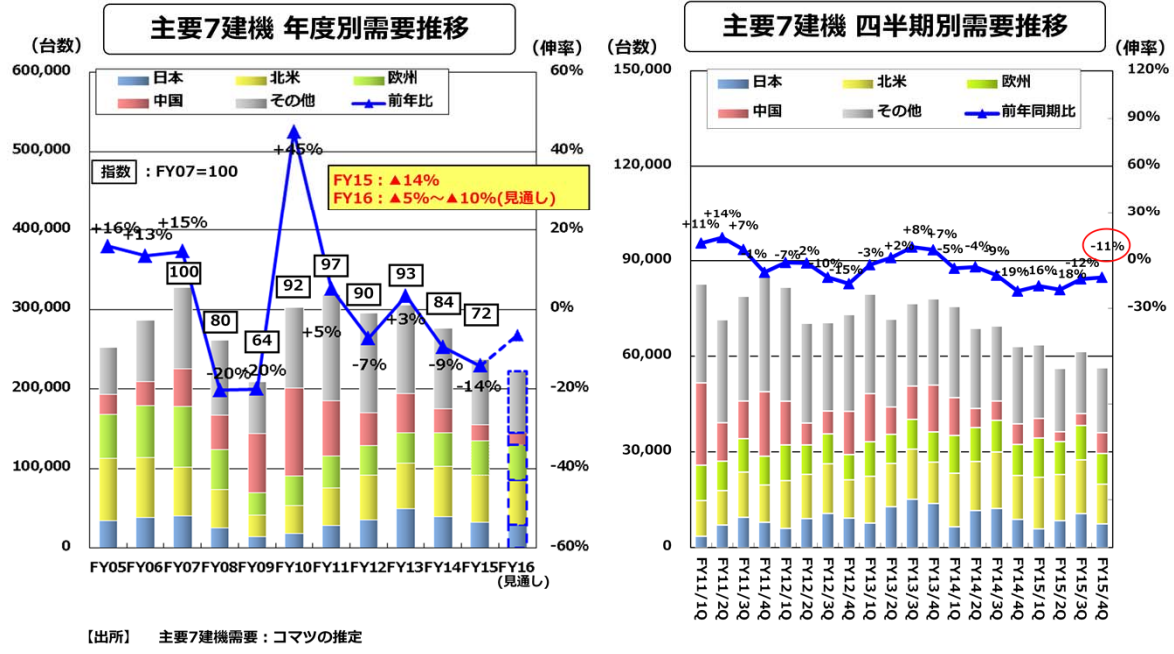


金額単位：億円	2014年度	2015年度	2016年度 (見通し)	前年比	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	640	580	586	+5	+1.0%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	736 [78]	710 [69]	761 [132]	+51 [+63]	+7.2% [+90.4%]
ギガフォトン	292	340	330	▲10	▲3.0%
コマツハウス(※)	163	161	-	▲161	-
その他	382	407	440	+32	+8.0%
合計	2,215	2,201	2,120	▲81	▲3.7%

(※)コマツハウスは2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業に譲渡予定(2016年03月22日ニュースリリース)

□産業機械他部門では、売上高は前年比▲3.7%減収の2,120億円、セグメント利益は前年比▲13億円減益の180億円の見通しです。なお、コマツハウス売却の影響を除くと、増収の見通しです。

- ・ 2015年度の需要は、欧州等一部堅調な地域はあるものの、中国をはじめとする戦略市場の減少が大きく前年比▲14%。
- ・ 2016年度も、2015年度同様の傾向が続き、全体の需要は前年比▲5%～▲10%の見通し。

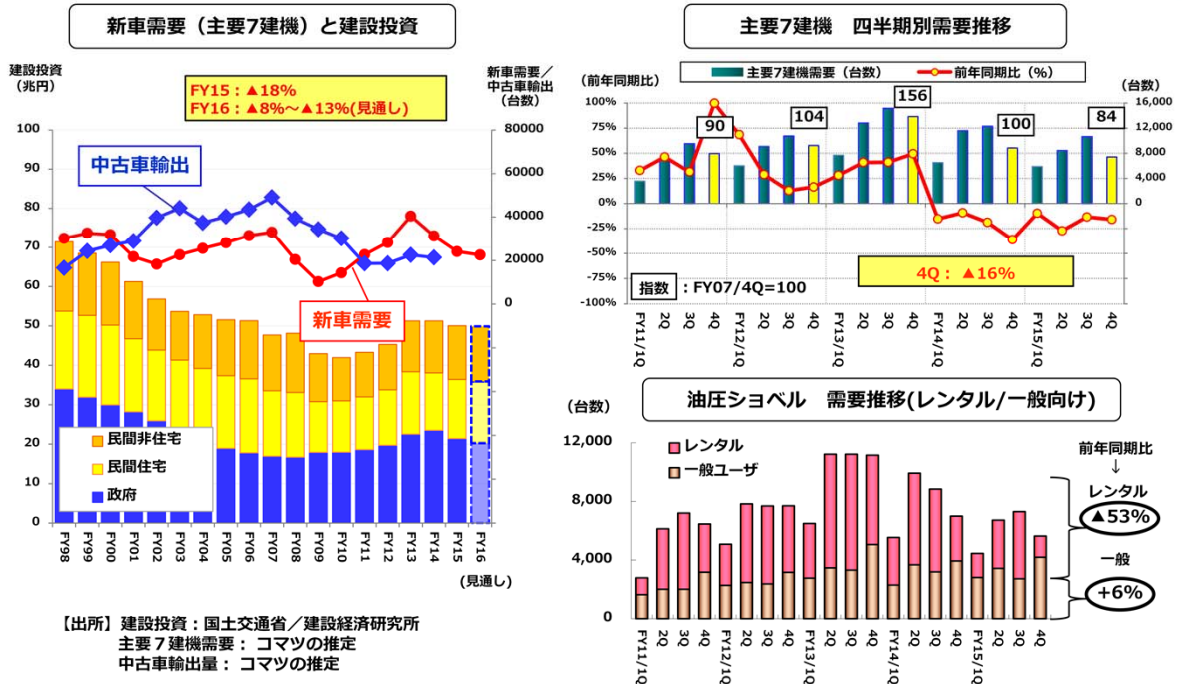


□2015年度の世界需要は、前年比▲14%の減少となった模様です。

□欧州等一部堅調な地域はあるものの、中国をはじめとする戦略市場の減少が大きく、2期連続の減少となりました。

□2016年度も、2015年度同様の傾向が続き、中国をはじめとする新興国・資源国の需要回復にはまだ時間がかかり、全体の需要は▲5%～▲10%と3年連続のマイナスになるものと見ております。

- ・2015年度の需要は、前年比で▲18%の減少。
- ・2016年度も、建設投資の減少傾向が続き、需要は前年比▲8%～▲13%の見通し。

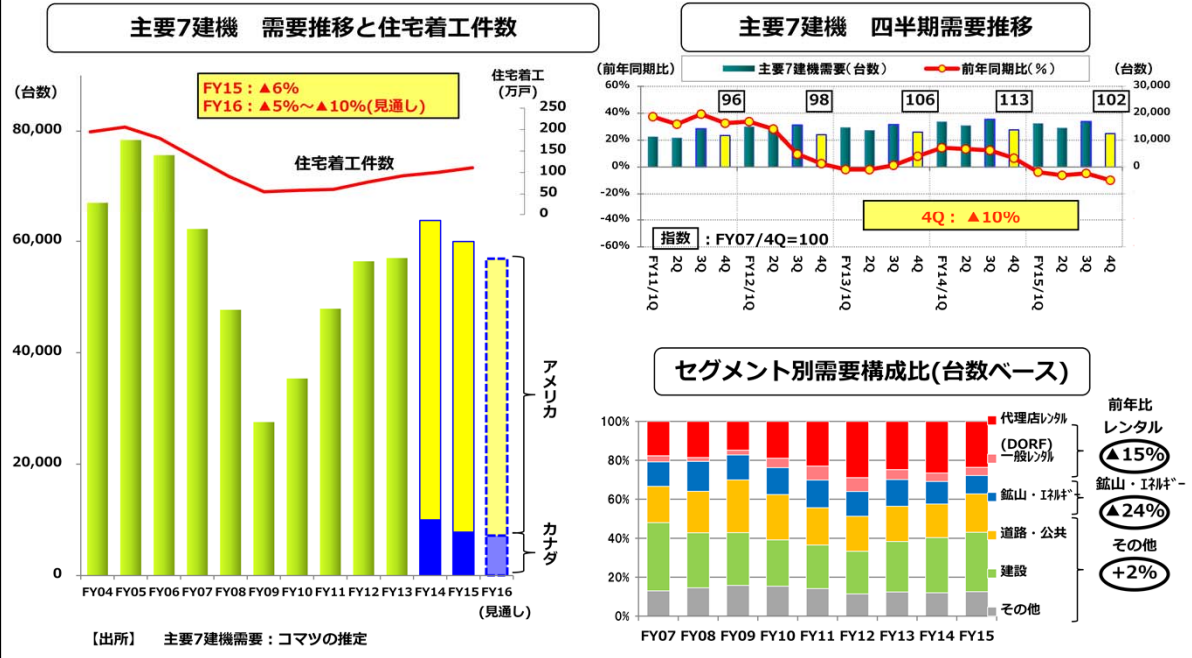


□2015年度の日本の需要台数は、前年比▲18%減少になりました。

□油圧ショベルの需要は、レンタル向けを中心に14年度排ガス規制関連の反動減が特に大きく、想定を下回りました。

□2016年度も、建設投資の減少傾向が続き、需要は前年比▲8%～▲13%と見ております。

- ・ 2015年度の需要は、前年比▲6%。
- ・ 2016年度は、引き続きアメリカの一般向け需要は堅調なもの、カナダ、鉱山・エネルギー分野向け需要が厳しく、前年比▲5%～▲10%の見通し。

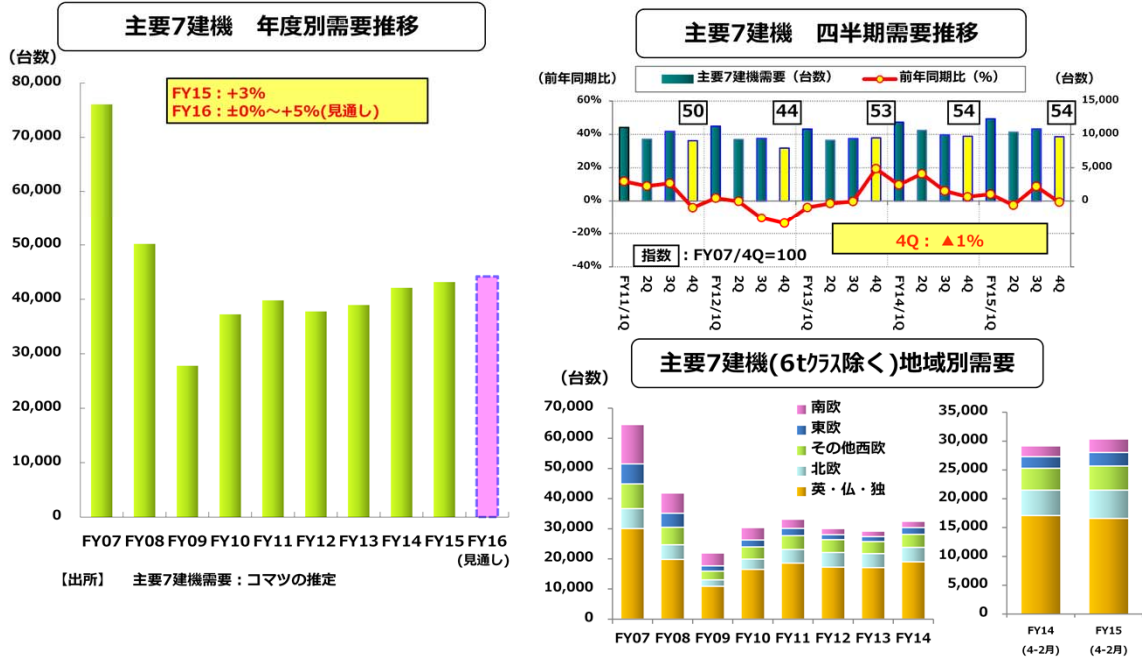


□2015年度の北米の需要は、前年比で▲6%減少しました。

□米国のエンドユーザ向け需要が引続き堅調だった一方、米国のレンタル需要、カナダの需要が大きく落ち込みました。

□2016年度についても、同様の傾向が続くと考えられ、全体としては前年比▲5%～▲10%の需要と見ております。

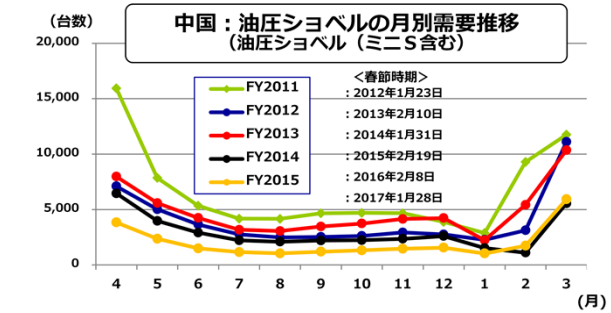
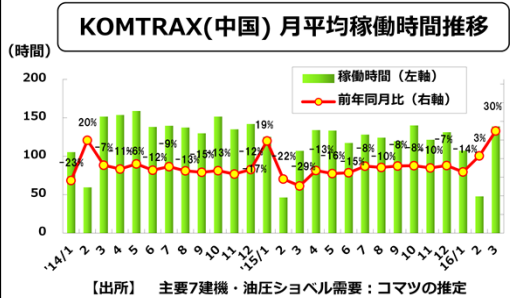
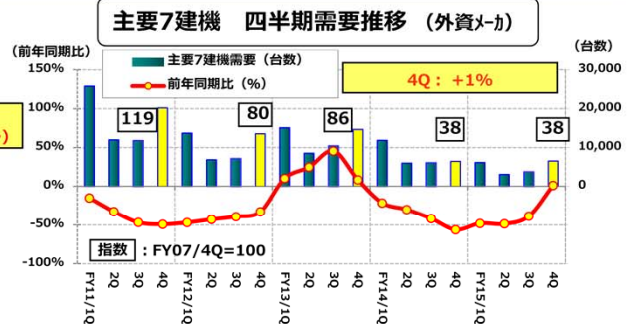
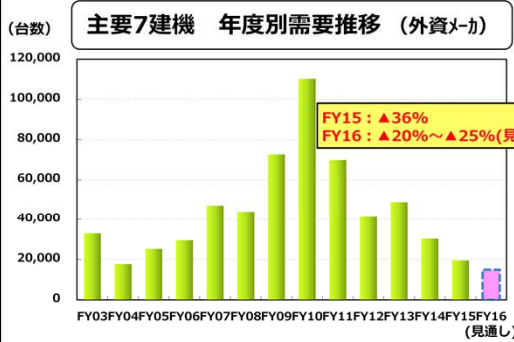
- ・ 2015年度の需要は、前年比+3%増加。
- ・ 2016年度の需要は、ドイツを中心に主要市場が堅調であり、他の北欧・南欧・東欧についても回復基調が継続する予想で、対前年で±0%～+5%の見通し。



□2015年度の欧州の需要は、前年比+3%増加となった模様です。

□2016年度もドイツを中心に主要市場が堅調であり、他の北欧・南欧・東欧についても回復基調が継続すると見ており、対前年で±0%～+5%の見通しです。

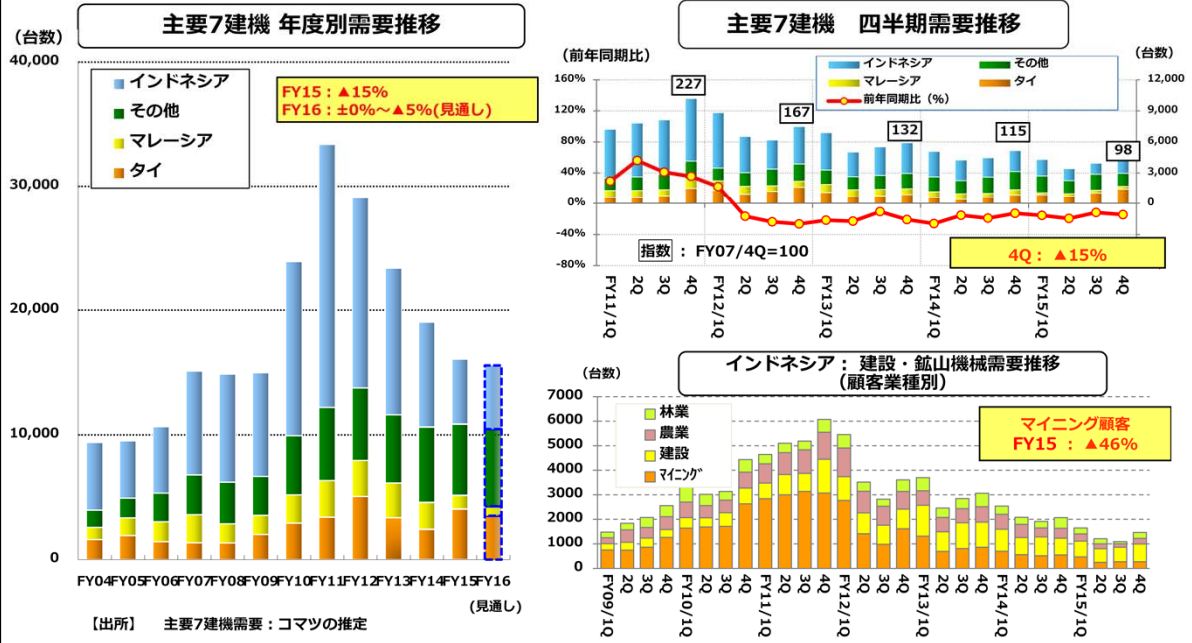
- ・ 2015年度の需要は、前年比▲36%。
- ・ 2016年度の需要は、依然マイナス傾向が継続し、▲20%～▲25%の見通し。



□2015年度の中国の需要は、前年比で▲36%の減少となりました。

□2016年度の需要は、現時点では、依然マイナス傾向が継続し、反動減の影響もあり ▲20%～▲25%と見ております。

- ・ 2015年度の需要は、前年比▲15%。
- ・ 2016年度は、中国経済低迷の影響もあり、全体的にマイナス基調が継続し、需要は±0%～▲5%の見通し。

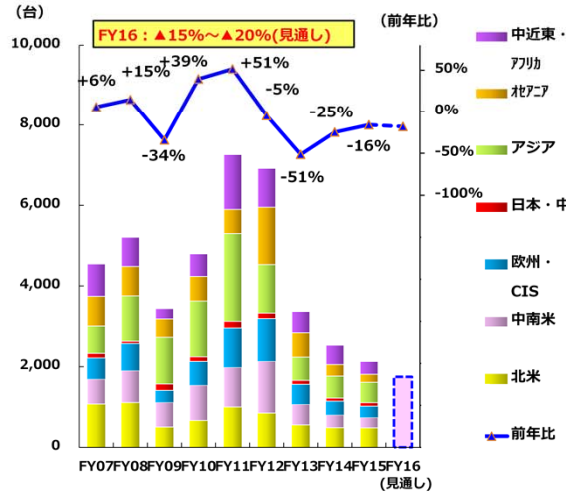


- 2015年度の東南アジアの需要は、前年比▲15%減少となりました。最大市場のインドネシアで鉱山関係・インフラ関連を中心に需要が減少しました。
- 2016年度は、中国経済低迷の影響もあり、全体的にマイナス基調が継続し、需要は±0%～▲5%と見ております。

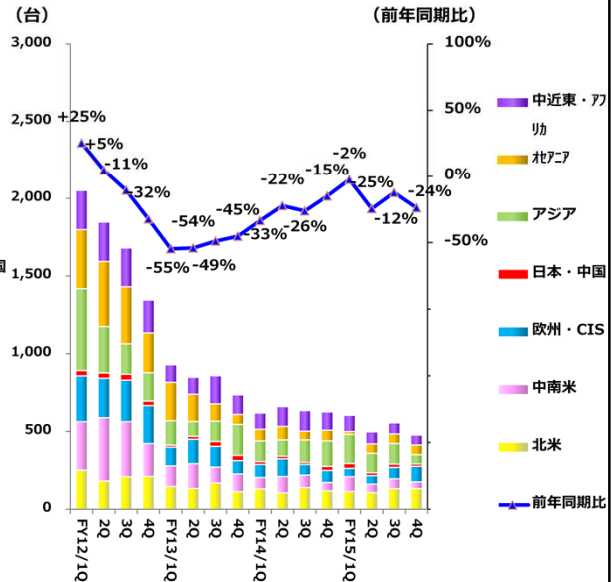
- ・2015年度の鉱山機械の世界需要は、減少幅は縮まったものの、引き続き低調に推移し、前年比▲16%。
- ・2016年度も、限定的な更新需要が中心となり、前年比▲15%～▲20%の見通し。

鉱山機械 年度別需要推移

・タンクトラック：75 t (HD785) 以上 ・アムホーザ：525HP (D375) 以上
 ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイローラ：810HP (WA800) 以上
 ・モーターレーダ：280HP (GD825) 以上



鉱山機械 四半期別需要推移

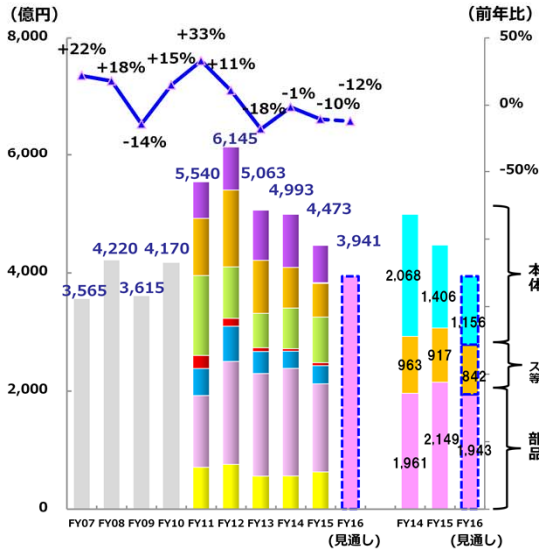


【出所】 コマツの推定

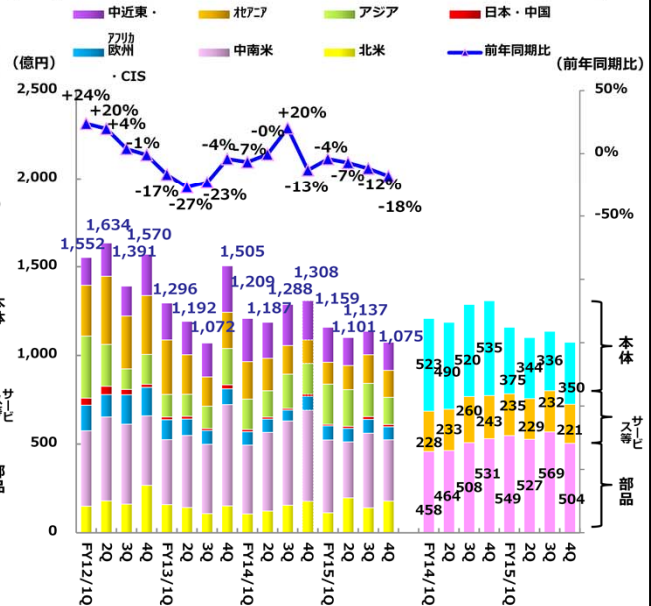
- 2015年度の鉱山機械の需要は前年比▲16%減となった模様です。減少幅は縮まったものの、引き続き需要はマイナスです。特に超大型の需要の落ち込みが大きくなっています。
- 2016年度も、鉱物価格が低迷しユーザが新規投資に慎重であり、限定的な更新需要が中心となり前年比▲15%～▲20%程度のマイナスになると見ております。需要全体の回復は2017年度以降になると考えます。

- ・ 2015年度の売上高は、本体販売が引き続き低迷し、前年比▲10%減の4,473億円。
- ・ 2016年度の売上高は、本体需要の減少と円高の影響により、前年比減収の見通し。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)



鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)

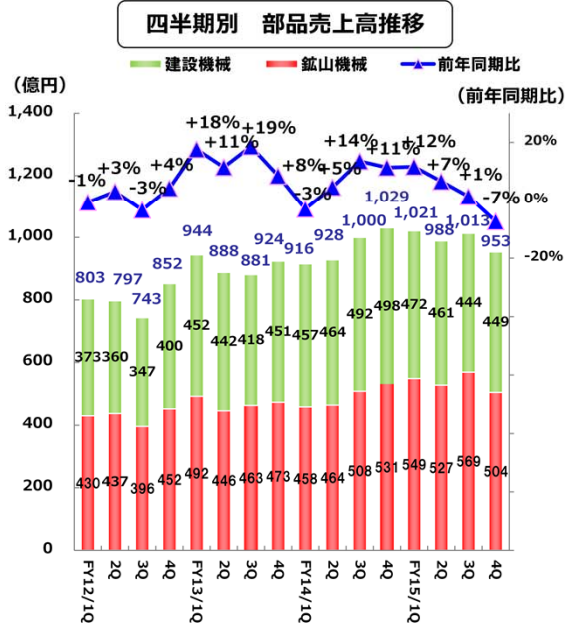
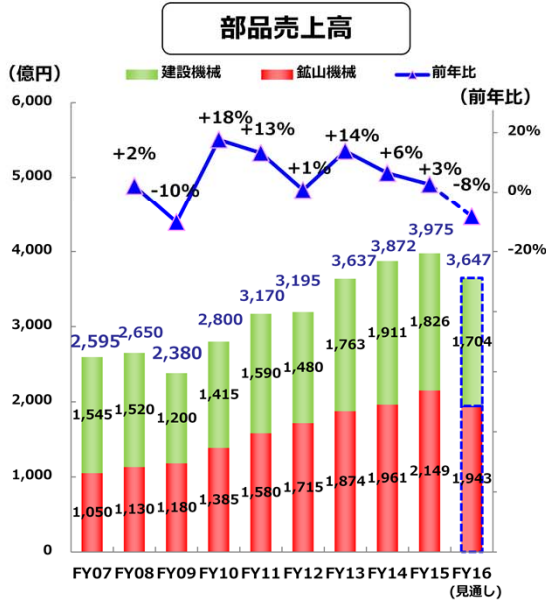


□2015年度の鉱山機械の売上高は、前年比▲10%減の4,473億円、為替の影響を除くと▲12%のマイナスとなりました。

□鉱山機械本体売上高が大きく落ち込んでいる一方で、既存の車両を長く使う傾向と、オーバーホールの堅調な受注で、部品売上高は好調です。為替による影響を除いても前年比でプラスとなりました。

□2016年度の売上高は、円高の影響で大きく落ち込みますが、為替影響を除くと、本体売上は需要減により前年比で微減となりますが、部品・サービスは微増、全体はほぼ横ばいとなる見込みです。

- ・ 2015年度の部品売上高は前年比+3%の3,975億円、為替の影響を除くとほぼ横ばい。
- ・ 2016年度の売上高は、円高の影響により▲8%の見通し。

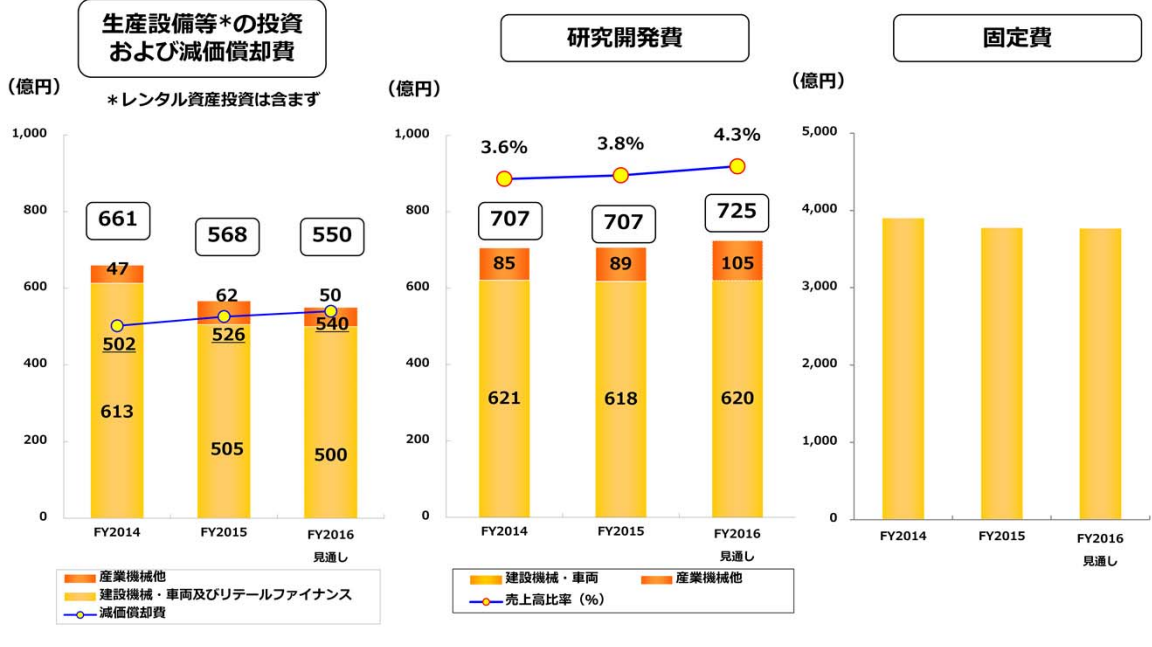


□ 2015年の部品の売上高は、前年比+3%の3,975億円、為替の影響を除くとほぼ横ばいとなりました。

□ 鉱山機械は、前頁の通り堅調に推移しています。

□ 2016年度は、円高影響で売上高は落ちますが、為替影響を除くと、物量ベースでは若干のプラスと見ております。

・設備投資は、投資総額を抑制する中で補給部品関連・IoT・生産改革投資及び、国内営業拠点の統合を推進。
 ・研究開発費は、排出ガス規制対応や分野別・地域別商品開発の他、イノベーションによる次世代商品開発に引き続き重点投資。
 ・固定費は、将来の成長のための投資の原資を確保する一方で、構造改革を継続し、全体としては引き続き抑制。



- レンタル資産投資を除く生産設備等の投資は、投資総額を抑制する中で補給部品関連・IoT・生産改革投資及び、国内営業拠点の統合を推進していく予定です。
- 研究開発費は、排出ガス規制対応や分野別・地域別商品開発の他、イノベーションによる次世代商品開発に引き続き重点投資し、2016年度は増加を予定しています。
- 固定費は、将来の成長のための投資の原資を確保する一方で、構造改革を継続し、全体としては引き続き抑制していきます。

Ⅲ. 中期経営計画(2016-18年度)

中期経営計画 (2016-18年度)

Together We Innovate GEMBA Worldwide
Growth Toward Our 100th Anniversary(2021) and Beyond

2016年4月27日

コマツ
代表取締役社長（兼）CEO
大橋 徹二

(中期経営計画の内容については2016/4/27のニュースリリースも併せてご参照ください)

1. 中期経営計画のキャッチフレーズ

34

全世界のコマツグループ社員、販売代理店および協力企業などパートナーの皆さんと力を合わせ、お客様の現場をお客様とともに革新し、新しい価値を創造するイノベーションを提供することで、100周年に向け、コアビジネスである建設・鉱山機械事業、産業機械事業での成長を目指します。

お客様、代理店、協力企業、社員の総合力

全ての活動の原点は現場に

我々の現場は世界中に

Together We Innovate GEMBA Worldwide
Growth Toward Our 100th Anniversary(2021) and Beyond

100周年に向け成長

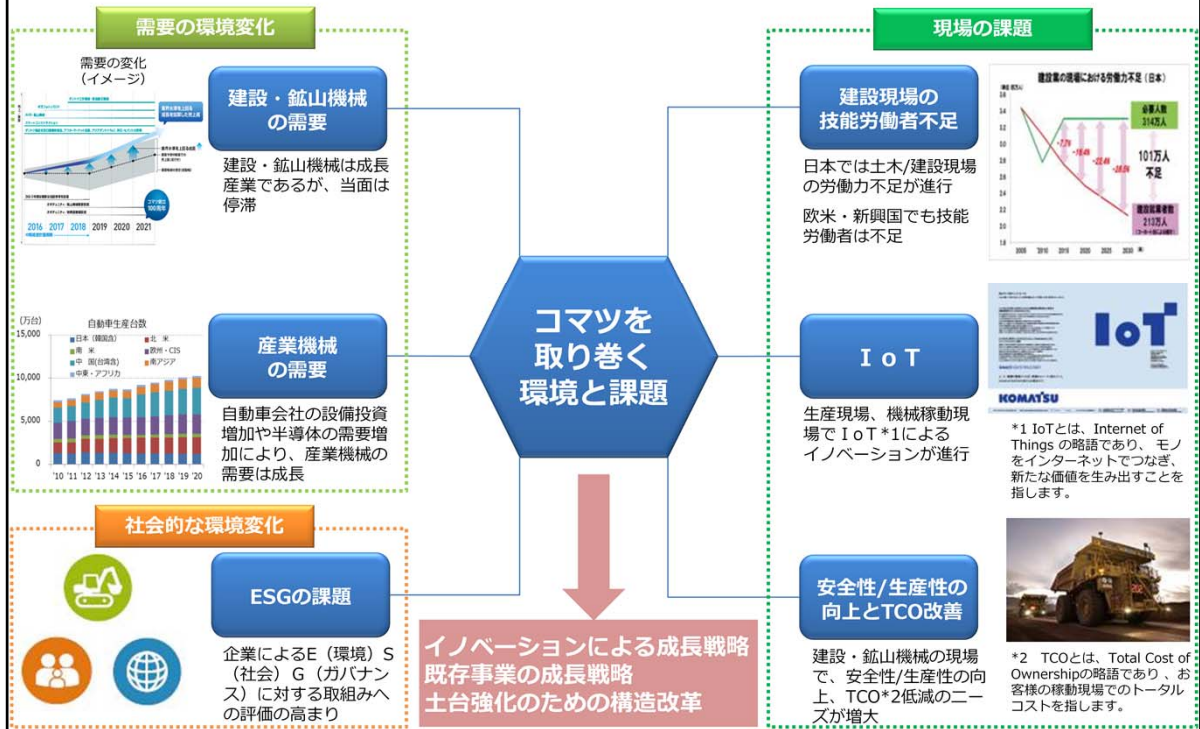


全世界のコマツグループ社員、
販売代理店および協力企業などパートナーの皆さんと
力を合わせ、お客様の現場をお客様とともに革新し、新しい価値を創造する
イノベーションを提供することで、100周年に向け、コアビジネスである
建設・鉱山機械事業、産業機械事業での成長を目指します。

□お客様の稼働現場を、お客様と共に革新し、新しい価値を提供し、GEMBAの安全性、生産性を向上させることで、コマツは成長します。

□100周年、そして更にその先も見据えて、GEMBAの革新に取り組んで、成長を目指します。

・ コマツを取り巻く環境変化や課題に対応しながら成長を目指します。

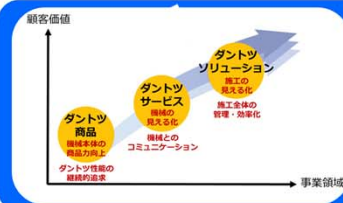


□売上げの約90%を占める建設・鉱山機械事業では、当面、需要の停滞が予想されます。その厳しい環境の中でも、成長を目指します。

□成長のキーは、GEMBAの課題への解決であり、技能労働者の不足、IoTの進歩、そして、お客さまの現場での、安全性、生産性、機械の生涯を通じてのトータルコストの低減です。

□経営全般に関しては、環境、社会、そしてコーポレートガバナンスに関する社会的な期待は更に高まっています。

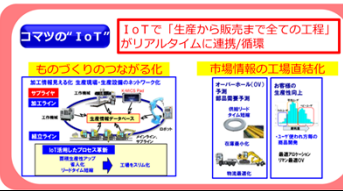
コマツを取り巻く環境や課題に対して、『ダントツ商品』『ダントツサービス』『ダントツソリューション』を基軸とした3つの重点活動をオープンイノベーションも活用し、1. イノベーションによる成長戦略 2. 既存事業の成長戦略 3. 土台強化のための構造改革 を推進し持続的な成長を目指します。



- 1. イノベーションによる成長戦略**
- 次世代建設・鉱山機械、次世代コンポーネントの開発
 - スマートコンストラクションの展開と次世代KOMTRAXの開発
 - AHS^{*1}の展開と鉱山向けソリューションのプラットフォーム強化
 - 産業機械のキーコンポーネントの内製化によるダントツ商品開発
 - ギガフォンのEUV光源^{*2}・新商品の開発
- *1: AHSとはAutonomous Haulage Systemの略であり、無人ダンプトラック運行システムのことを指します。
*2: EUVとはExtreme Ultravioletの略であり、EUV光源は次世代の半導体製造技術のことを指します。

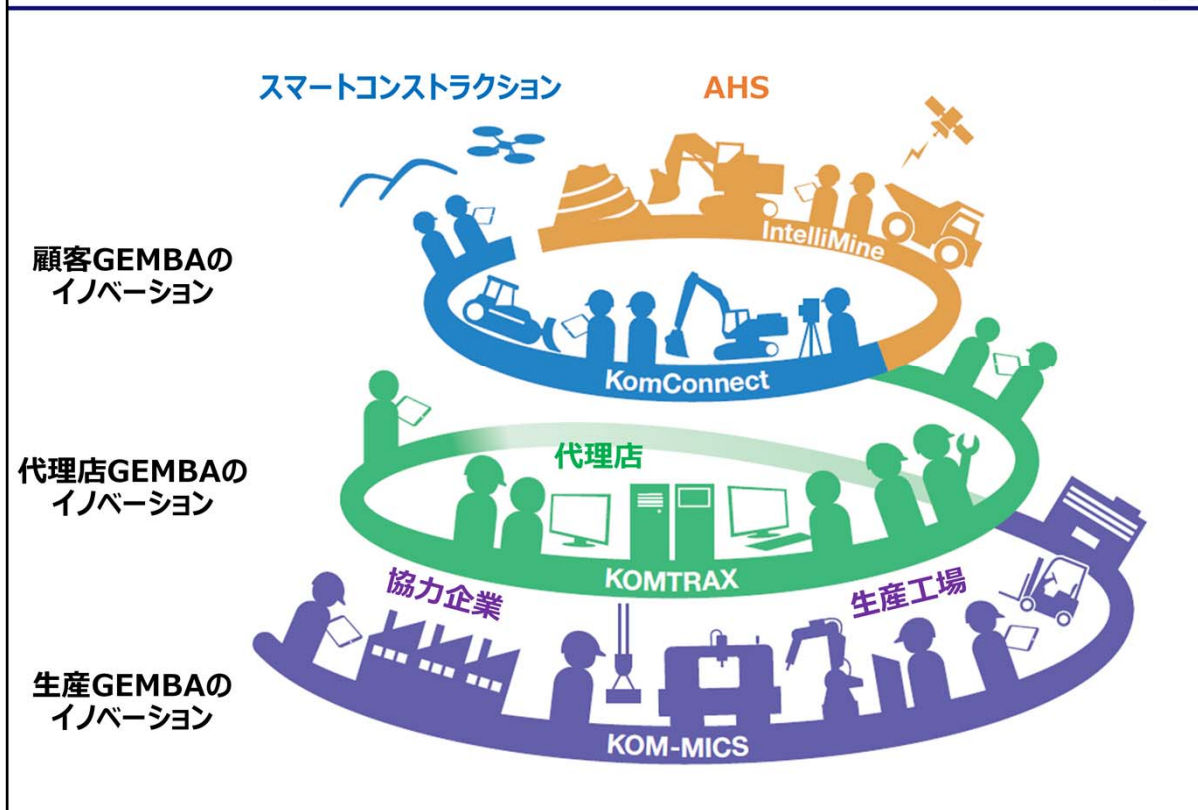


- 2. 既存事業の成長戦略**
- ダントツ商品を含む新商品の開発による拡販
 - バリューチェーンでの収益拡大
 - 鉱山機械事業の拡大
 - 建機事業の拡大（アジア市場でダントツNo1、砕石・セメント業者向け建設機械でのグローバルプレゼンス強化、分野商品の拡大等）
 - 産業機械事業の拡大
 - 林業機械事業の拡大
 - M&Aの活用



- 3. 土台強化のための構造改革**
- つながる工場による生産改革
 - コストの継続的な削減（原価、固定費）
 - 補給部品オペレーション改革
 - 開発の筋肉質化
 - グローバルな人材強化、ダイバーシティを持続的発展につなげる仕組み作り

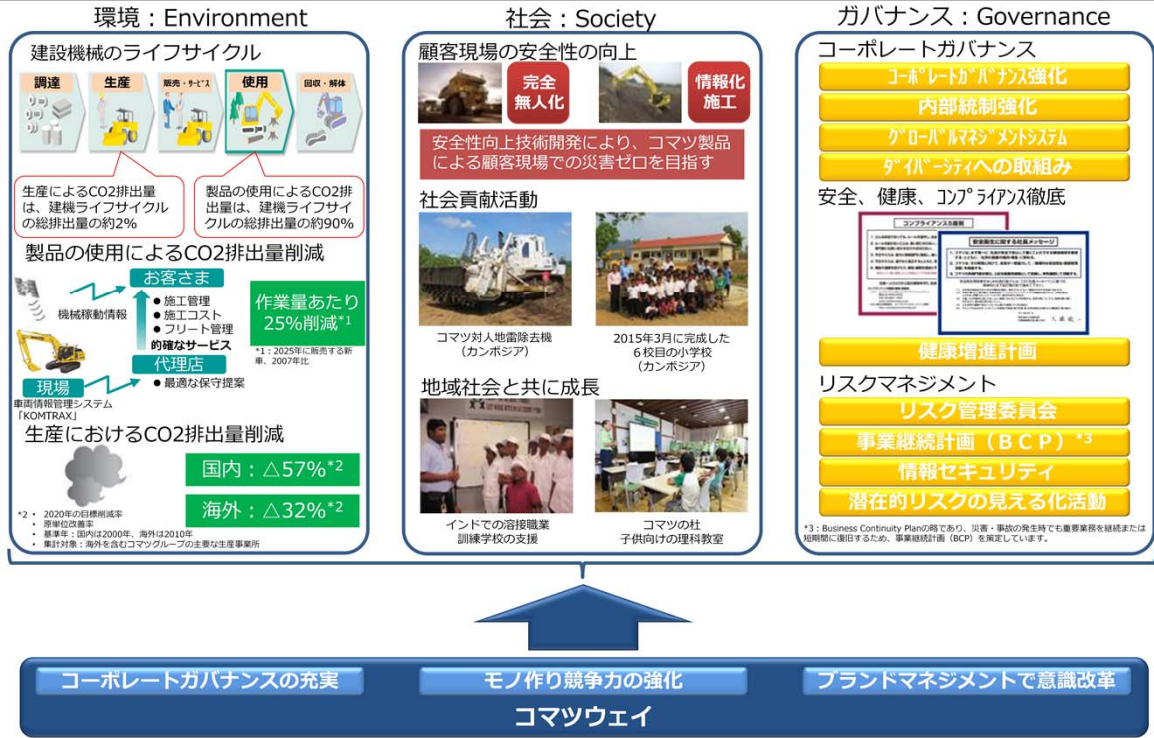
□今回の中期経営計画においても、基本戦略は変わらず、イノベーションによる成長、既存事業の成長、構造改革を継続します。



□コマツのつながる化は、自工場の生産改革のみではなく、工場が協力企業、そして代理店、更に鉱山機械や建設機械の稼働現場、お客様とも直接つながるコンセプトです。このコンセプトをイメージ図にしています。

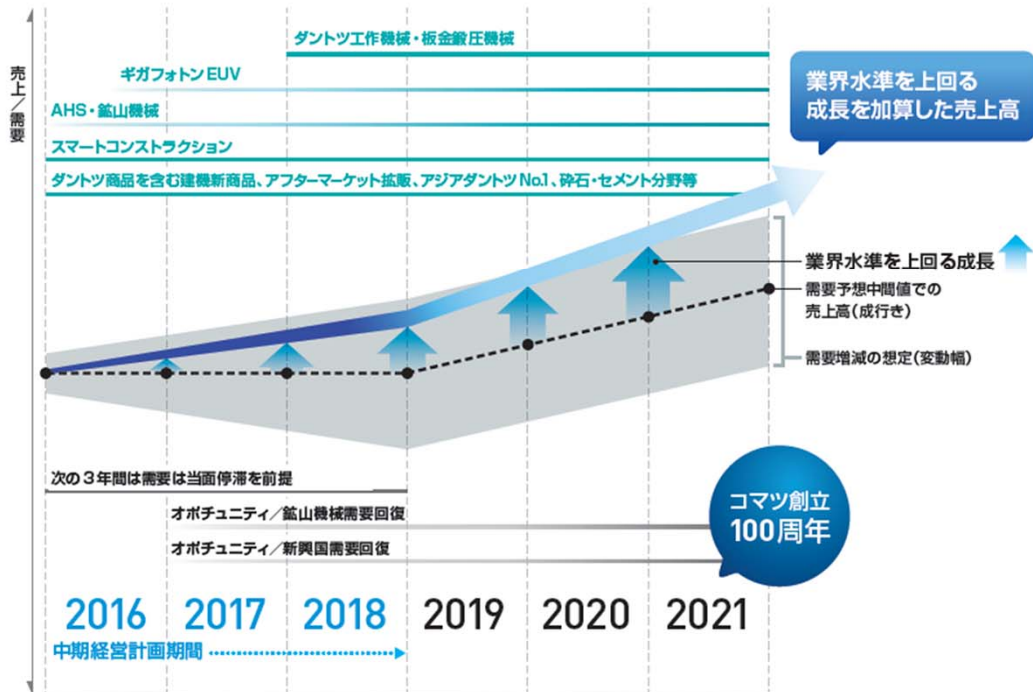
□IoTによるつながる化により、顧客GEMBA、代理店GEMBA、そして生産GEMBAのイノベーションを進めます。

社会からの要請に応える活動を、コマツウェイをベースにして、E（環境）/S（社会）/G（企業統治）の各分野で更に強化推進していきます。



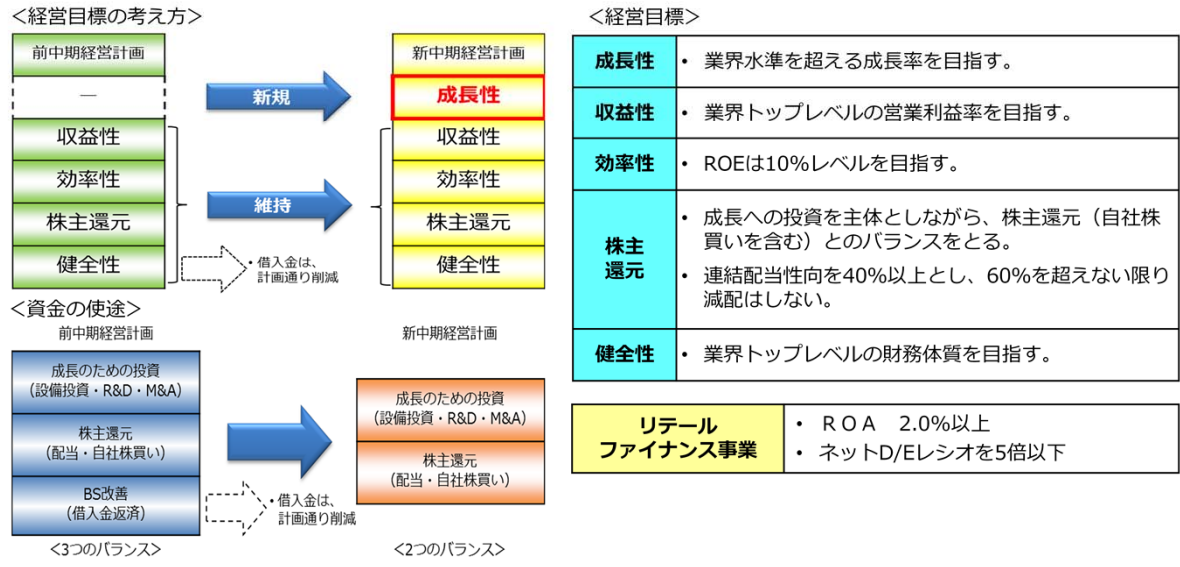
□従来から取り組んできたESGの重要性は、益々高まります。ベースとなるのは、コマツウェイの①コーポレートガバナンスの充実、②モノ作り競争力の強化、③お客様にとって、不可欠な存在になるブランドマネジメントです。

- 需要は当面停滞を想定するが、イノベーションによる成長と既存事業の成長により、業界水準を超える成長を実現する。



□イノベーションによる成長と既存事業の成長により、100周年に向けて、業界水準を超える成長を目指します。

- ・ 従来の業界トップレベルの収益性と財務体質に加え、需要が停滞する中でも、業界水準を超える成長性を目指します。
- ・ 株主還元に一層配慮し、連結配当性向を40%以上とし、60%を超えない限り減配はいたしません。
- ・ リテールファイナンスをセグメント化し、全社とリテールファイナンス部門の収益性と財務体質の透明性を高めます。リテールファイナンス部門は、独自の経営目標を設けます。



□経営目標には新たに成長性を入れ、収益性は、業界トップレベルを維持しながら、同業他社を上回る成長を目指します。

□配当は、需要が当面停滞する厳しい環境ですが、安定配当を維持し、配当性向を10ポイント上げて40%以上として、60%を超えない限り、減配はしない方針です。

□リテールファイナンスの経営目標は、効率性と財務の健全性の観点から、ROAとネットD/Eレシオという2つの指標を設定しました。



田代未来選手
(写真：アフロスポーツ)

平成28年全日本選抜柔道体重別選手権大会終了後に第31回オリンピック競技大会(2016年 リオデジャネイロ)柔道競技の日本代表選手選考が行われ、63kg級の田代未来選手が選出されました。オリンピックへ向けて引き続きの応援とご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

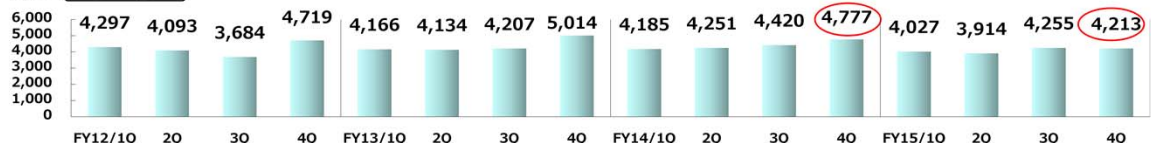
【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>

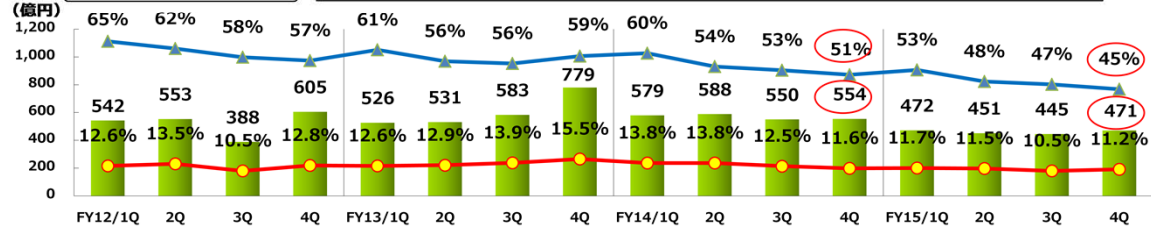
参考資料

売上高

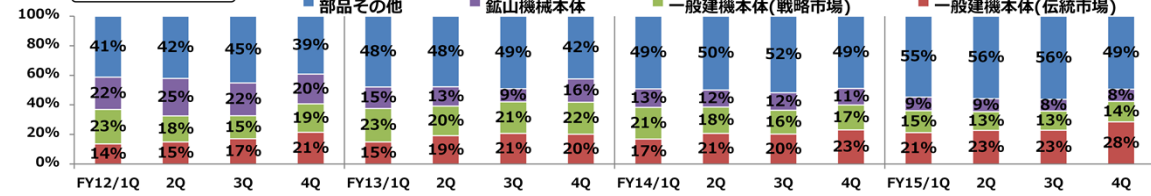


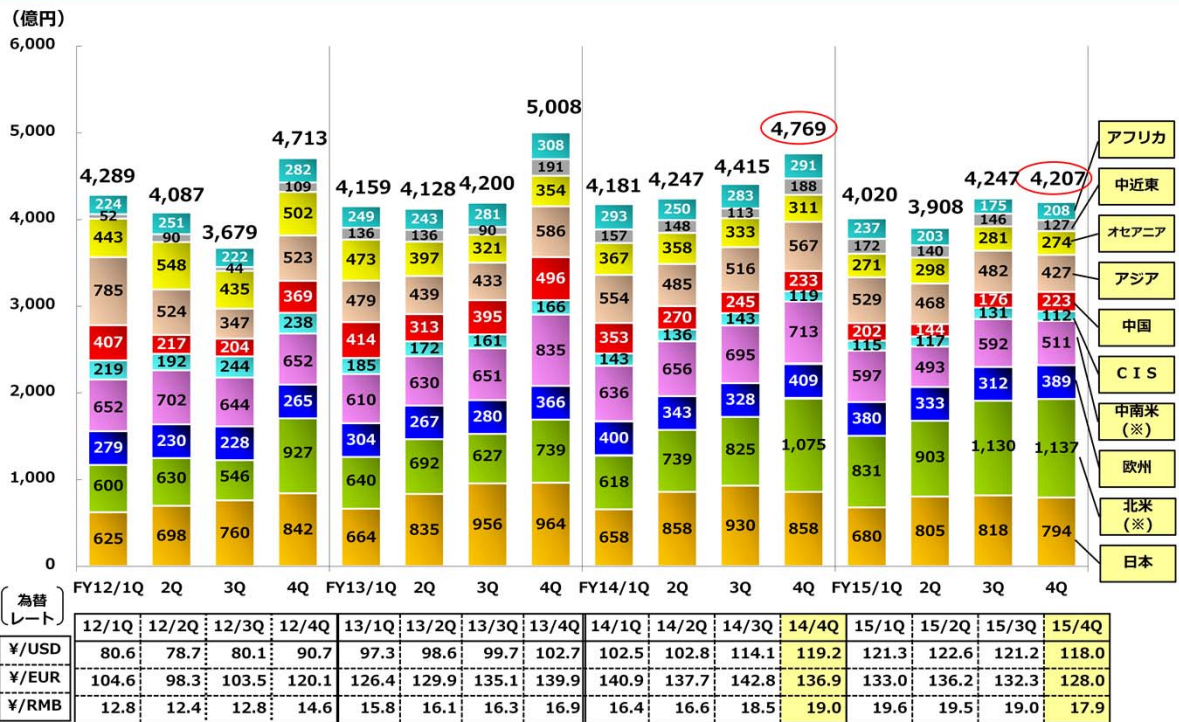
	12/1Q	12/2Q	12/3Q	12/4Q	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q
¥/USD	80.6	78.7	80.1	90.7	97.3	98.6	99.7	102.7	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0
¥/EUR	104.6	98.3	103.5	120.1	126.4	129.9	135.1	139.9	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0
¥/RMB	12.8	12.4	12.8	14.6	15.8	16.1	16.3	16.9	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9

セグメント利益

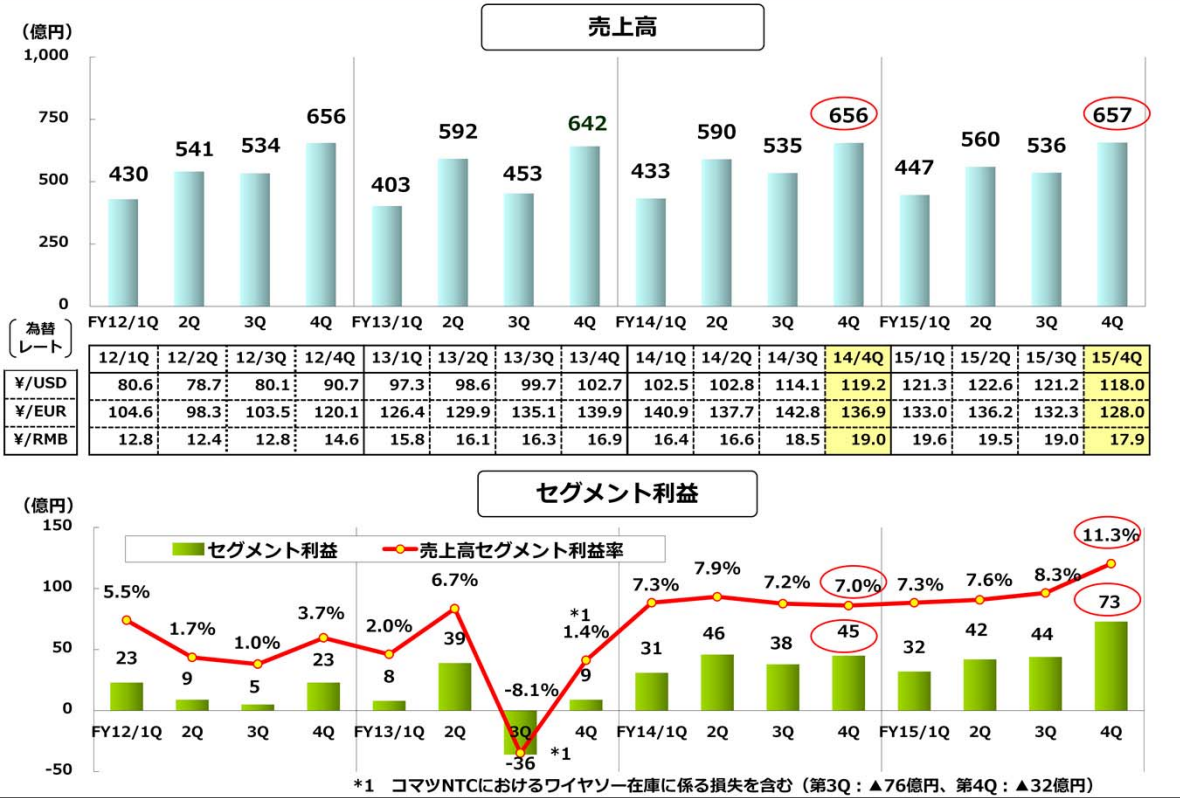


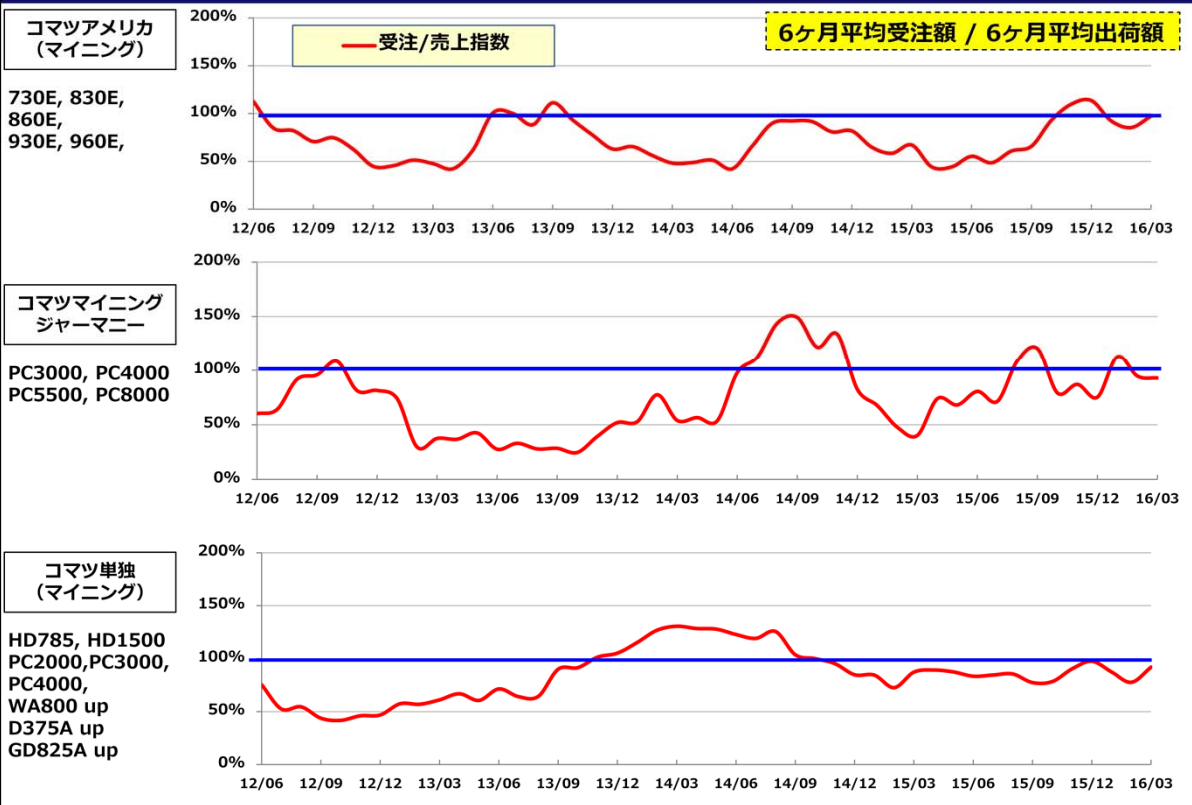
売上高構成比





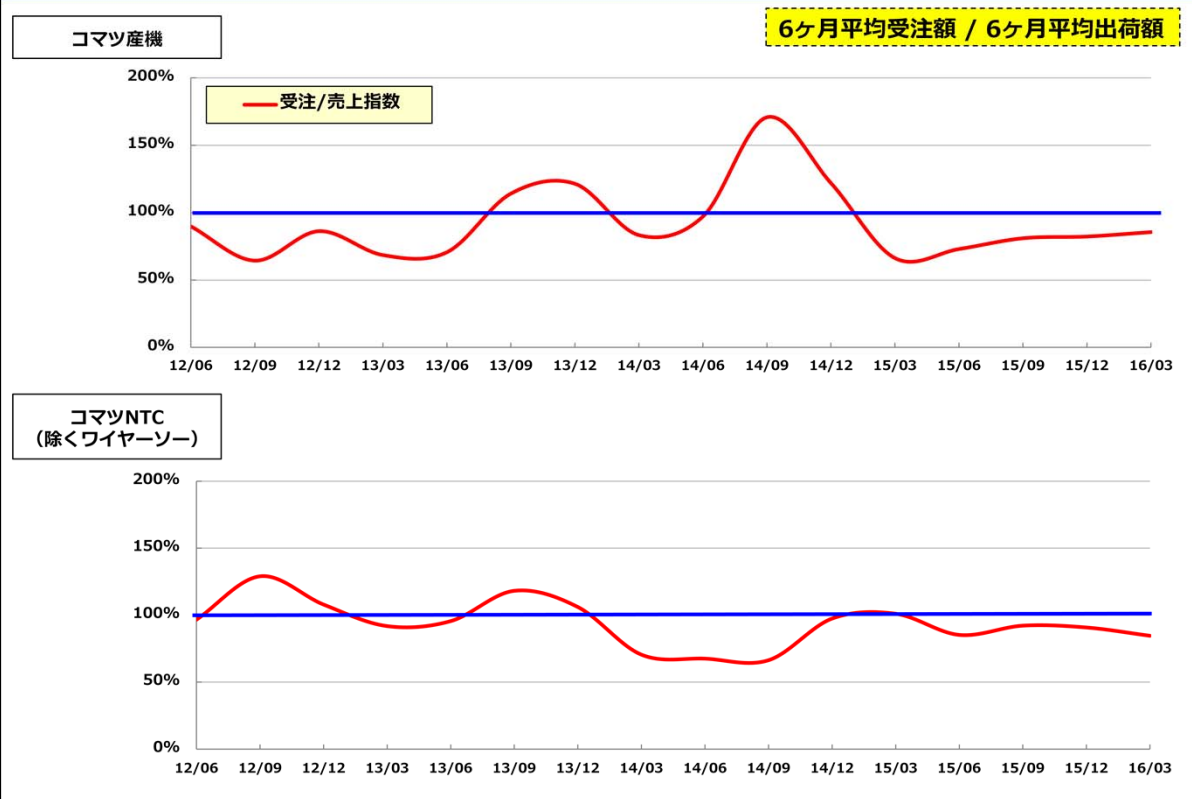
(※)2015年度より、メキシコ代理店の買収に伴い、「北米」に含まれていた一部のメキシコ向け売上高を「中南米」に変更。(過去分も遡及して組替表示)





□ 鉱山機械新車の、受注と売上の指数の推移を示しております。

□ グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



□産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

【売上・損益】

- ・ 連結売上高は前年同期比▲10.6%減収の4,844億円。
- ・ 営業利益は前年同期比▲10.4%減益の539億円。売上高営業利益率は同率の11.1%。
- ・ 純利益は前年同期比▲10.2%減益の336億円。

金額単位：億円	2015年1-3月 ¥119.2/USD ¥136.9/EUR ¥19.0/RMB	2016年1-3月 ¥118.0/USD ¥128.0/EUR ¥17.9/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	5,420	4,844	▲576	▲10.6%
セグメント利益	597	550	▲47	▲7.9%
その他の営業収益（▲費用）	3	▲11	▲15	-
営業利益	601	539	▲62	▲10.4%
売上高営業利益率	11.1%	11.1%	±0.0ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲43	▲21	+21	-
税引前純利益	558	517	▲41	▲7.4%
純利益*	374	336	▲38	▲10.2%

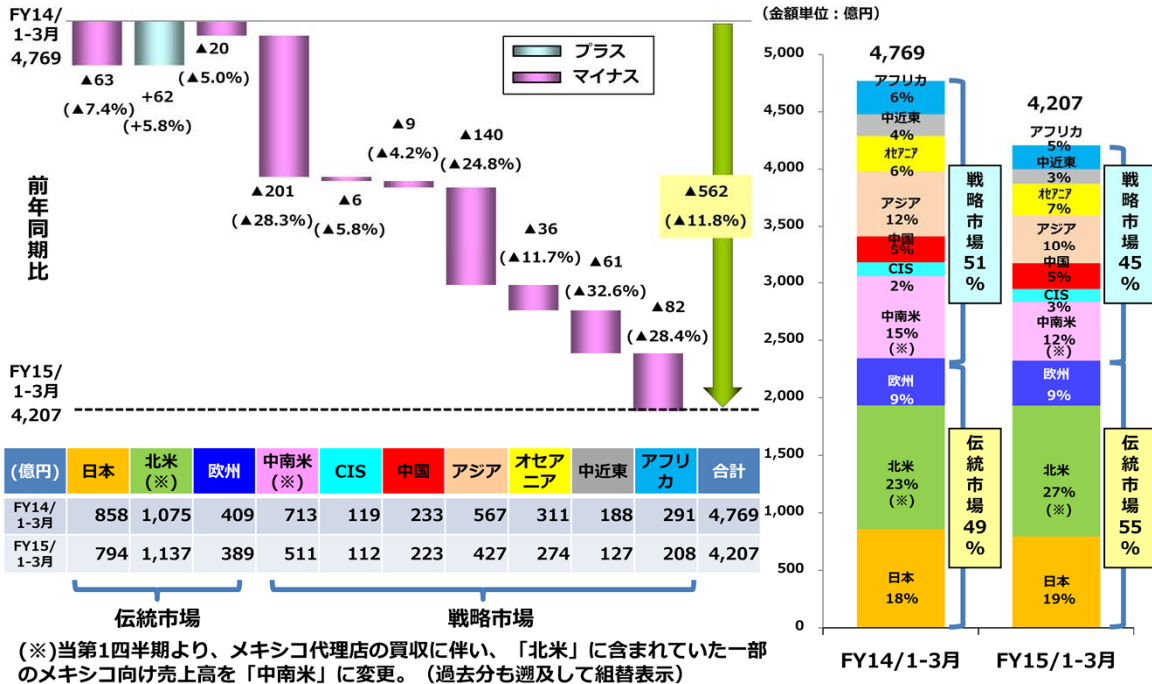
*米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

- ・建設機械・車両部門の売上高は▲11.8%減収の4,213億円。セグメント利益は▲14.9%減益の471億円。セグメント利益率も▲0.4ポイント悪化し、11.2%。
- ・産業機械他部門の売上高は、+0.2%増収の657億円。セグメント利益は+60.8%増益の73億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2015年1-3月		2016年1-3月		前年同期比		
					増減	増減率	
売上高	5,420		4,844		▲576	▲10.6%	
建設機械・車両 産業機械他	(4,769) (650)	4,777 656	(4,207) (636)	4,213 657	(▲562) (▲13)	▲563 +1 (▲11.8%) (▲2.1%)	▲11.8% +0.2%
消去	▲12		▲26		▲13	-	
セグメント利益	□11.0%	597	□11.4%	550	▲47	▲7.9%	
建設機械・車両 産業機械他	□11.6%	554	□11.2%	471	▲82	▲14.9%	
	□7.0%	45	□11.3%	73	+27	+60.8%	
消去または全社	▲2		5		+7	-	

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲11.8%減収の4,207億円。
- ・北米が伸ばしたものの中南米・アジア等戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が55%に増加。



（※）当第1四半期より、メキシコ代理店の買収に伴い、「北米」に含まれていた一部のメキシコ向け売上高を「中南米」に変更。（過去分も遡及して組替表示）